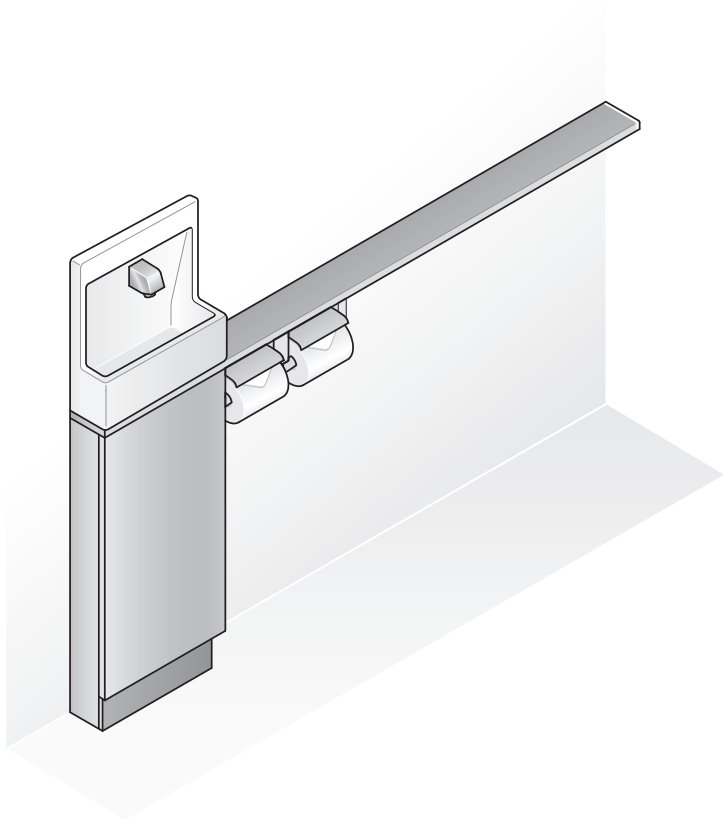


レストルームドレッサー スリムシリーズ

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。  
取付後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。  
本書は手洗器が左勝手を基準に説明しております。本書に記載の寸法の単位はmmです。

本書とあわせて、各部材に付属の説明書やチラシをご確認のうえ、正しく取り付けてください。

|         |    |
|---------|----|
| 安全上のご注意 | 2  |
| 取付前のご注意 | 4  |
| 部品の確認   | 10 |



取付方法

|   |                              |    |
|---|------------------------------|----|
| 1 | 偏心管・排水ソケット・止水栓の取り付け          | 12 |
| 2 | キャビネットの固定                    | 13 |
| 3 | カウンターの取り付け(カウンタータイプの場合)      | 14 |
| 4 | 手洗器の取り付け                     | 17 |
| 5 | 給水管の接続                       | 19 |
| 6 | 排水管の接続                       | 21 |
| 7 | 電気温水器本体の取り付け(電気温水器付き自動水栓の場合) | 21 |

|          |    |
|----------|----|
| 器具類の取り付け | 23 |
| 仕上げ・調整   | 24 |

工事店様へ

- 取扱説明書の最終ページの保証書に、必要事項を記入のうえ、必ずお客様にお渡しください。  
お渡しできない場合は、目立つ場所に置いてください。
- 新築などでお客様に引き渡すまでに時間があるときは、電源プラグを抜いておいてください。

# 安全上のご注意

安全のために必ずお守りください。

お取付前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。  
ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容となりますので、必ずお守りください。

## 表示と意味

**警告**

**注意**

死亡や重傷を負う可能性が  
ある内容です。

傷害や物的損害※が発生する  
可能性がある内容です。



してはいけない禁止の内容です。



必ず実行していただく強制の内容です。

※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

|  <b>警告</b>      |                                                                                                                               |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  <b>分解禁止</b>    | 修理技術者以外の人は絶対に分解したり、修理・改造は行わない<br>火災や感電の原因となります。                                                                               |
|  <b>水場使用禁止</b>  | 浴室など水がかかったり湿気の多い場所には設置しない<br>火災や感電の原因となります。<br>商品本体・ねじ類の腐食により、落下してけがやときに死亡の原因となります。                                           |
|  <b>禁止</b>    | 水道水および飲用可能な井戸水・地下水以外は使用しない<br>皮膚の炎症などを起こす原因となります。                                                                             |
|                                                                                                  | 指定する電源(交流100V)以外では使用しない<br>火災の原因となります。                                                                                        |
|                                                                                                  | 電源コード・電源プラグが破損するようなことをしない<br>傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたり、挟み込んだり、加熱したりしない<br>傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。 |
|                                                                                                  | 屋外および傾斜のあるような壁面、振動の激しい場所に取り付けない<br>取り付けが不安定になり、倒れたり落下してけがやときに死亡の原因となります。                                                      |
|                                                                                                  | 雷が発生しているときは、電源プラグに触れない<br>感電の原因となります。                                                                                         |
|                                                                                                  | 電源プラグやコードが傷んだりコンセントの差し込みがゆるいままで使用しない<br>火災や感電の原因となります。                                                                        |
|  <b>必ず守る</b>  | コンセントは水や小水がかからない位置に設置する<br>コンセントに水がかかり、感電・発火の原因となります。                                                                         |
|                                                                                                  | 壁固定ねじ取付位置には、必ず壁裏を補強する<br>商品の転倒、落下によりけがやときに死亡の原因となります。                                                                         |
|                                                                                                  | 電源プラグを抜くときは、必ずプラグ本体を持って引き抜く<br>コードを引っ張るとプラグやコードが傷んで、火災や感電の原因となります。                                                            |
|                                                                                                  | 商品を取り付ける柱・間柱は、腐食などで強度不足でないことを確認する<br>取付物の転倒・落下によりけがやときに死亡の原因となります。                                                            |
|                                                                                                  | 器具取付用のねじ固定部の壁裏には、配管・配線を通さない<br>火災や感電の原因となります。<br>水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。                                                 |
|                                                                                                  | コンセントや配線器具の定格を超える使いかたをしない<br>たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります。                                                                 |
|  <b>アース接続</b> | アース(D種接地)工事がされていることを確認する<br>アース工事がされていないと故障や漏電のとき、感電する原因となります。<br>アース工事は、お近くの工事店に依頼してください。                                    |

## 警告



### 工事完了後、商品の傾きやがたつきがないか確認する

商品が落下したり、外れたりしてけがやときに死亡の原因となります。

### 機器の設置は専門業者が行う また、電気工事は関連する法令・法規に従って 有資格者(電気工事士)が行う

火災や感電の原因となります。水漏れして、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。  
商品の破損や落下によりけがをするおそれがあります。

## 注意



### 商品に強い力や衝撃を与えない

商品の破損や落下によりけがをするおそれがあります。  
水漏れして、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

### 給水ホースが破損するようなことをしない 傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、 ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、 束ねたり、挟み込んだり加熱したりしない

給水ホースが破損し、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

### 止水栓を開けたままで給水フィルターを外さない 水が噴き出し、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

### カウンターの上に乗って作業しない

カウンターが破損したり落下したりして、けがの原因となります。

### 推奨位置以外に設置する場合は、安全性を十分に確認する

取り付けが不安定になり、使用中に落下してけがの原因となります。

### 商品の壁への固定が完了するまで、もたれたり 物を載せたりしないよう十分注意する

商品が倒れたり落下してけがの原因となります。

### カットした面は滑らかに仕上げる

滑らかに仕上げないとお客様の手が触れ、けがをする原因となります。

### 手洗器など、器具周囲のすき間処理は、本説明書 に記載された方法・注意事項を厳守する

水が浸入し、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

### ねじ部の固定については、本説明書に記載された 方法・注意事項を遵守する

商品が破損し、けがをする原因となります

### 給水フィルターを取り付けるときは接続部や フィルターふたを確実に締める

水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

### 設置工事に使用する部材は必ず付属部品および 指定部品を使用する

取り付けが不安定になり、使用中に落下してけがの原因となります。水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

※止水栓は必ず商品同梱の専用止水栓(フィルター付き)を取り付けてください。

### 水平器を用いて水平に設置する

収納物が落下してけがの原因となります。

### 必ず自動水栓機能部の接続口が上になるように 固定する

水が浸入し、不具合の原因になります。

### 工事完了後、給排水管から水漏れがないか確認 する

水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

### 給水・排水接続は、本説明書に記載された方法・ 注意事項を遵守する

水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

### 金属露出部や鋭利な部位を扱うときは、軍手な どを使用する

取付時にけがをする原因となります。

### 凍結のおそれがある地域では、配管部材などに 保温材を巻く

また寒冷地用の場合は水抜きを行う  
自動水栓は、自動水栓施工説明書内「凍結予防の  
仕方」を参照し、凍結予防を確実にを行う

### 商品の取り付け・加工は、本説明書に記載された 方法・注意事項を厳守する

商品が破損・落下し、けがのおそれがあります。

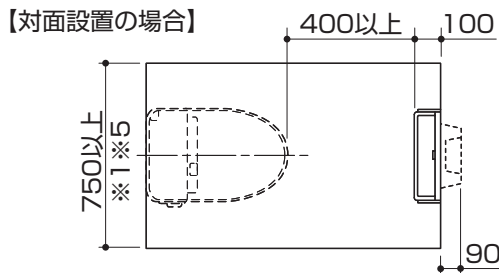
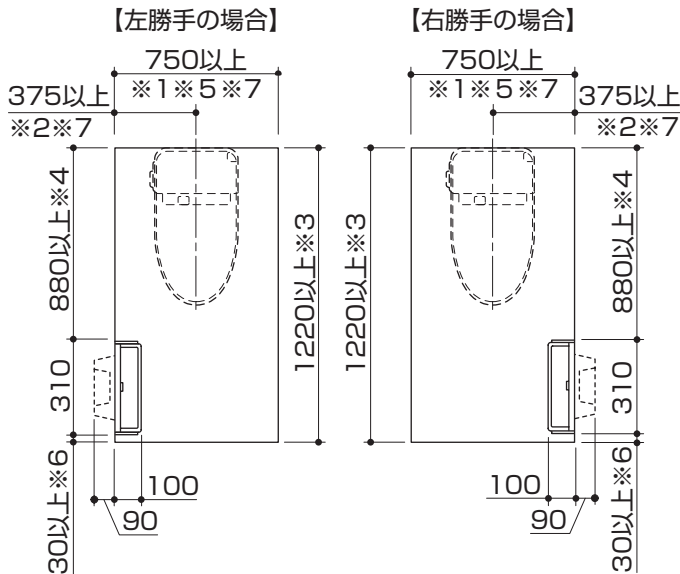
凍結すると器具の一部が破損し、水漏れして家財などを  
ぬらす財産損害発生の原因となります。

# 1 取付前のご注意

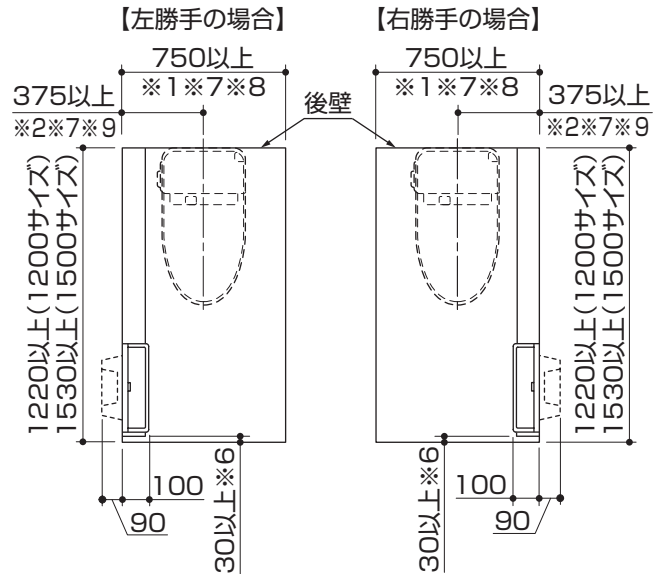
- ・ 施工や運搬、清掃時に触れる可能性のある金属類は、陶器と接触しないようにしてください。  
金属類が陶器表面をこすり、スジ状の跡が付くおそれがあります。
- ・ 取り付けに必要なトイレスペースを確保するとともに、ドア枠などの干渉により扉が開かなくなる場合がありますので、「設置寸法について」を参考に設置してください。
- ・ 施工前に給水取出位置・排水管位置およびコンセント位置が所定の位置であることを確認してください。
- ・ キャビネットの表面にテープ・シールなどをはらないでください。

## 1 設置寸法について

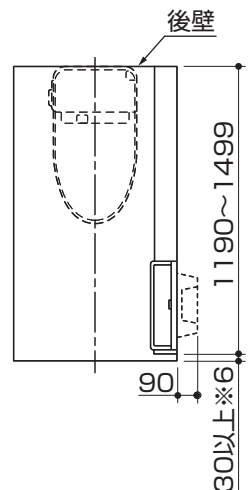
### 手洗器単体タイプ



### カウンタータイプ(1200/1500サイズ)



- ・ 1500サイズのカウンターは、トイレ奥行きにあわせてカットすることができます。カットする際は、周辺機器の取り合いを十分確認してください。
- ・ カウンター端部を後壁に突き当てて取り付けてください。

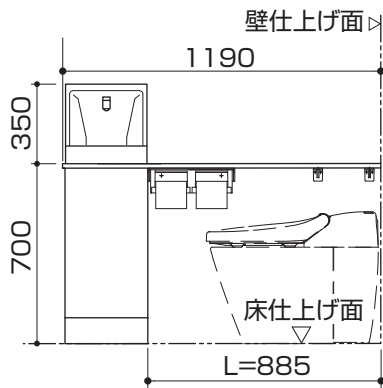


- ※1 ネオレストNXとセットする場合、770mm以上となります。
- ※2 ネオレストNXとセットする場合、385mm以上となります。
- ※3 ネオレストNXとセットする場合、1235mm以上となります。
- ※4 ネオレストNXとセットする場合、895mm以上となります。
- ※5 FDとセットする場合、新築は1370mm まで、リモデルは960mmまでとなります。
- ※6 指の挟み込み防止のため、30mm以上のすき間確保が必要です。
- ※7 足元収納コンパクトタイプ(埋込あり)を設置する場合・ウォームレットとセットする場合、765mm以上、390mm以上を確保してください。
- ※8 FDとセットする場合、830mm以上新築は1370mm以下、リモデルは960mmまでとなります。
- ※9 FDとセットする場合、455mm以上となります。

# 1 設置寸法について (つづき)

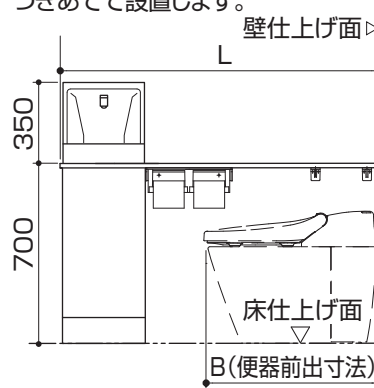
## カウンタータイプ1200サイズの場合

紙巻器は、手洗器キャビネットにつきあてて設置します。

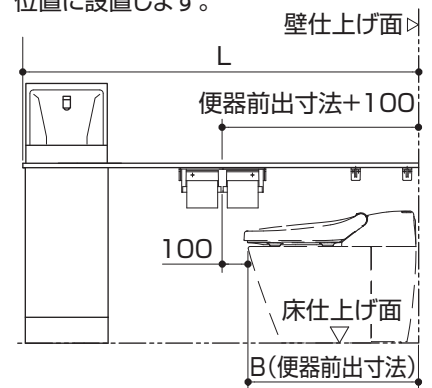


## カウンタータイプ1500サイズの場合

【L-Bの寸法が575mm以下の場合】  
紙巻器は、手洗器キャビネットにつきあてて設置します。



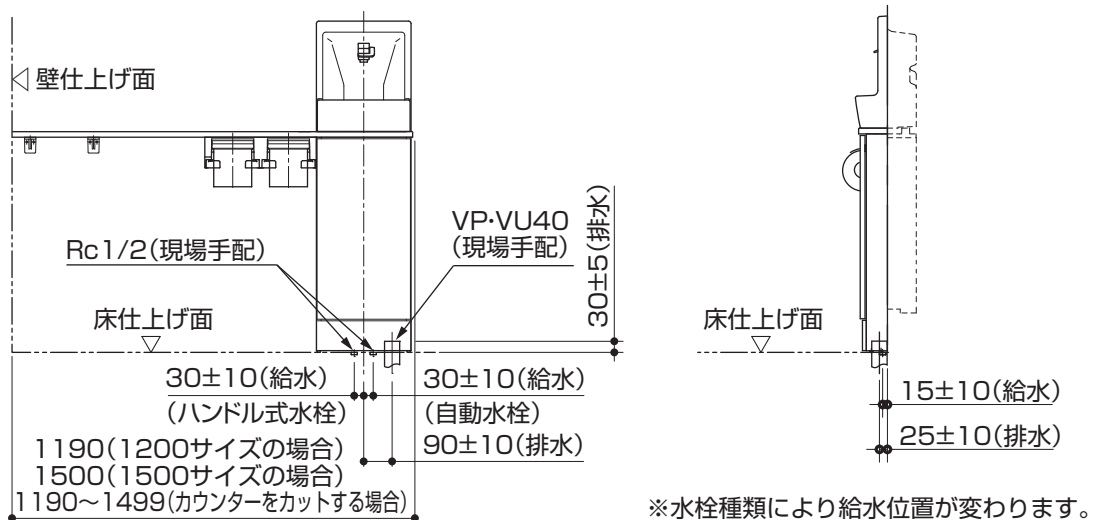
【L-Bの寸法が575mmより大きい場合】  
紙巻器は、便器前出寸法+100mmの位置に設置します。



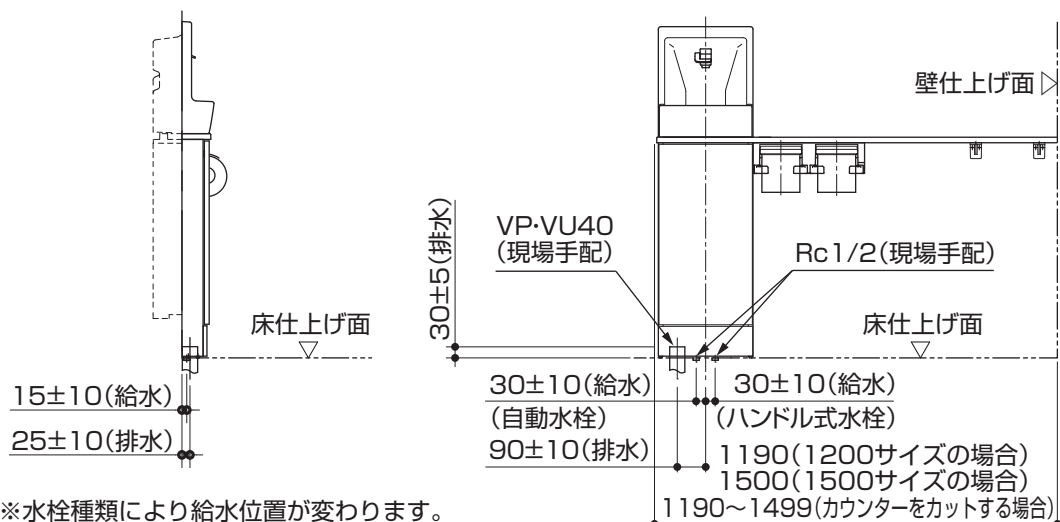
# 2 給排水位置について

- ・設備側給水管の立ち上げは、床仕上げ面と同一面にしてください。
- ・カウンターをカットする場合は、カウンター長さにあわせて給排水の取り出しを行ってください。
- ・給水圧力範囲は、最低必要水圧:0.05MPa(流動時)、最高水圧:0.75MPa(静止時)です。この圧力範囲であることをご確認ください。

## 右勝手



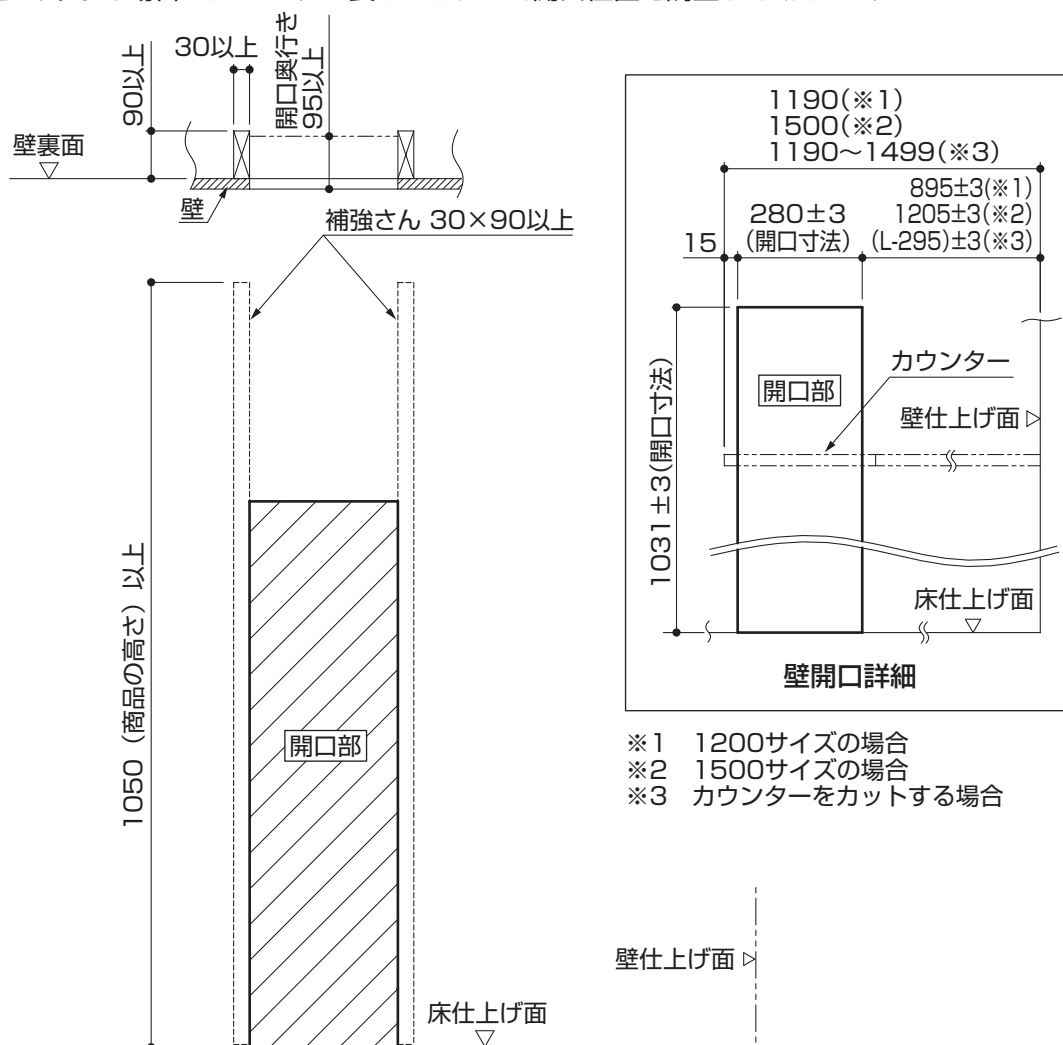
## 左勝手



### 3 壁開口、補強さんについて

下図に示す位置にあらかじめ開口が必要となります。

カウンターをカットする場合は、カウンター長さにあわせて開口位置を調整してください。

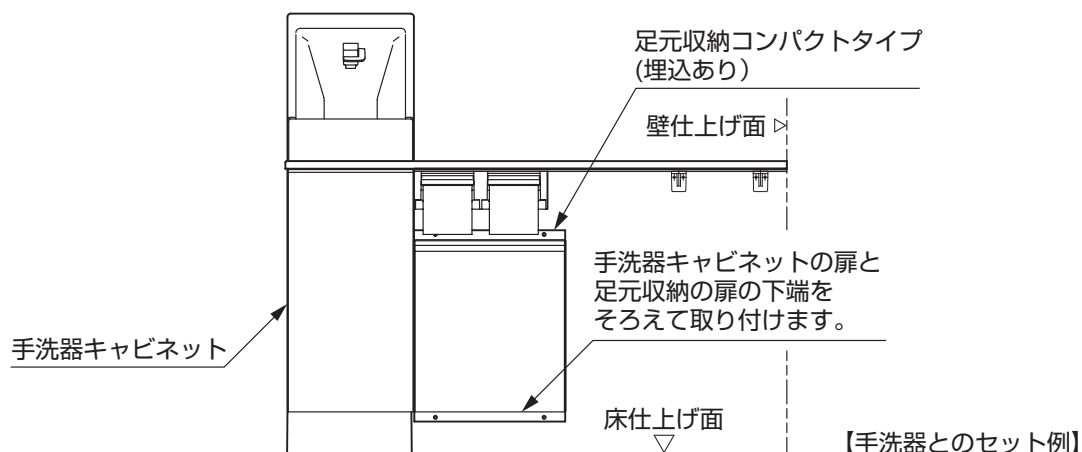


- ※1 1200サイズの場合
- ※2 1500サイズの場合
- ※3 カウンターをカットする場合

※上図は左勝手の場合を示しています。右勝手の場合は上図と逆の配置となります。  
※Lは壁仕上げ面からカウンター先端までの寸法

#### 足元収納コンパクトタイプ(埋込あり)を手洗器と連結設置する場合

取付位置については下記のとおりです。



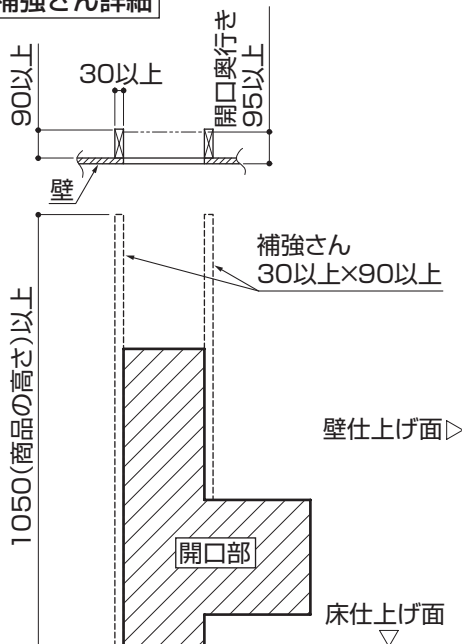
### 3 壁開口、補強さんについて (つづき)

下図に示す位置にあらかじめ開口が必要となります。

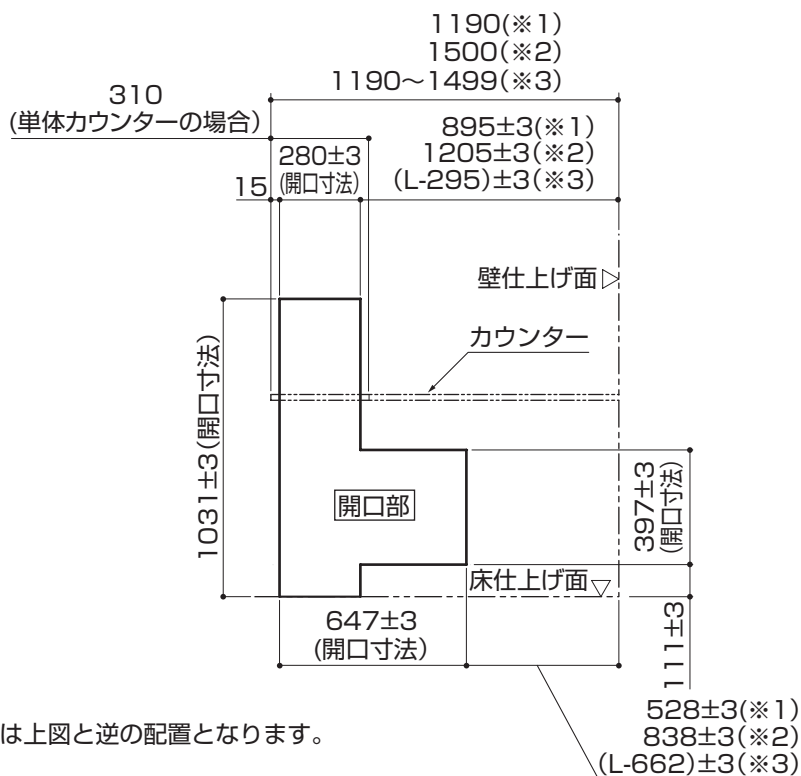
カウンターをカットする場合は、カウンター長さにあわせて開口位置を調整してください。

#### 足元収納コンパクトタイプ(埋込あり)を手洗器と連結設置する場合

補強さん詳細



壁開口寸法



※1 1200サイズの場合

※2 1500サイズの場合

※3 カウンターをカットする場合

※図はL勝手の場合を示しています。R勝手の場合は上図と逆の配置となります。

※Lは壁仕上り面からカウンター先端までの寸法

### 4 補強材について (必ず入れる)

ねじ位置については下記URL内の「ねじ位置情報」をご覧ください。

[URL]

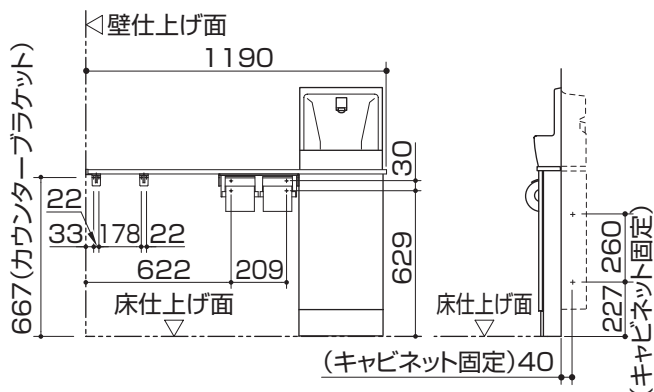
<https://search.toto.jp/contents/navi/construction/eito/kinejiichijoho/kinejiichijoho.htm>



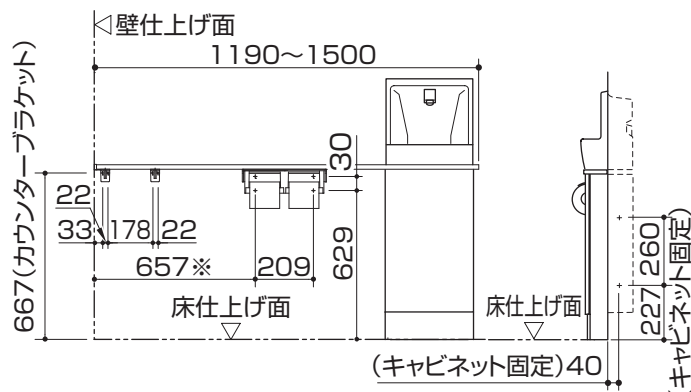
- ・ 建築工事(別途工事)にて、手洗器およびカウンター、周辺部材の壁取付面には、あらかじめt12以上の普通合板（JAS規格品）を入れておいてください。合板は受木または間柱などに固定してください。
- ・ タイル・コンクリート壁の場合は、固定ねじ位置に下穴をあけ、木ねじ用プラグを打ち込んで固定してください。
- ・ 周辺部材に関しては各説明書をご参照ください。

#### 固定ねじ位置

##### 【1200サイズ】



##### 【1500サイズおよびカウンターをカットする場合】



※ 紙巻器の位置は、手洗器の位置や便器の前出によって寸法が変わります。

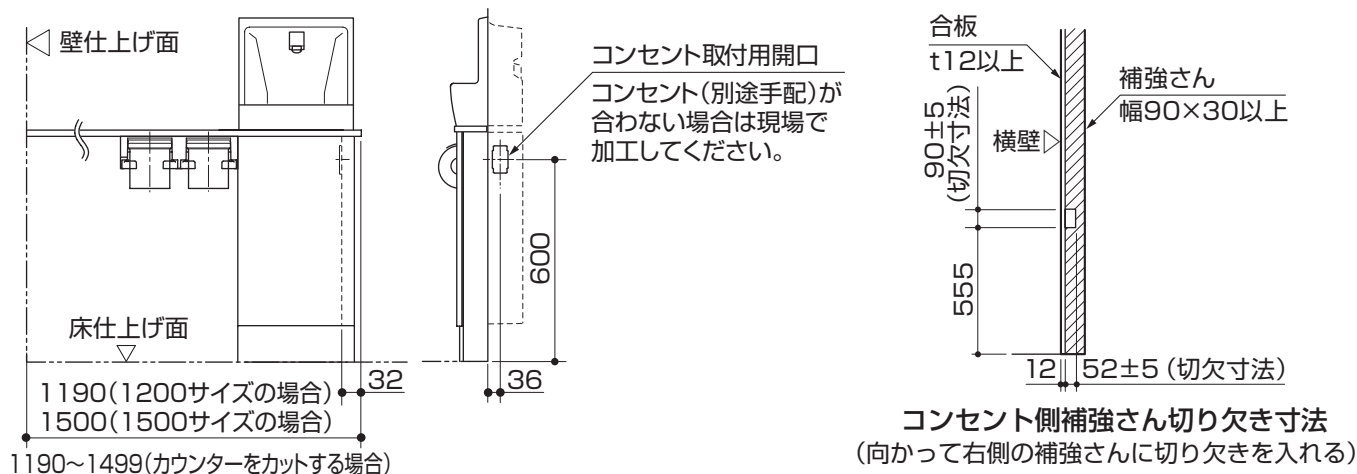
※ 上図は右勝手、カウンタータイプの場合を示しています。

左勝手、カウンタータイプ足元収納(埋込あり)付き、手洗器単体タイプの場合は上記URL内の「ねじ位置情報」をご覧ください。

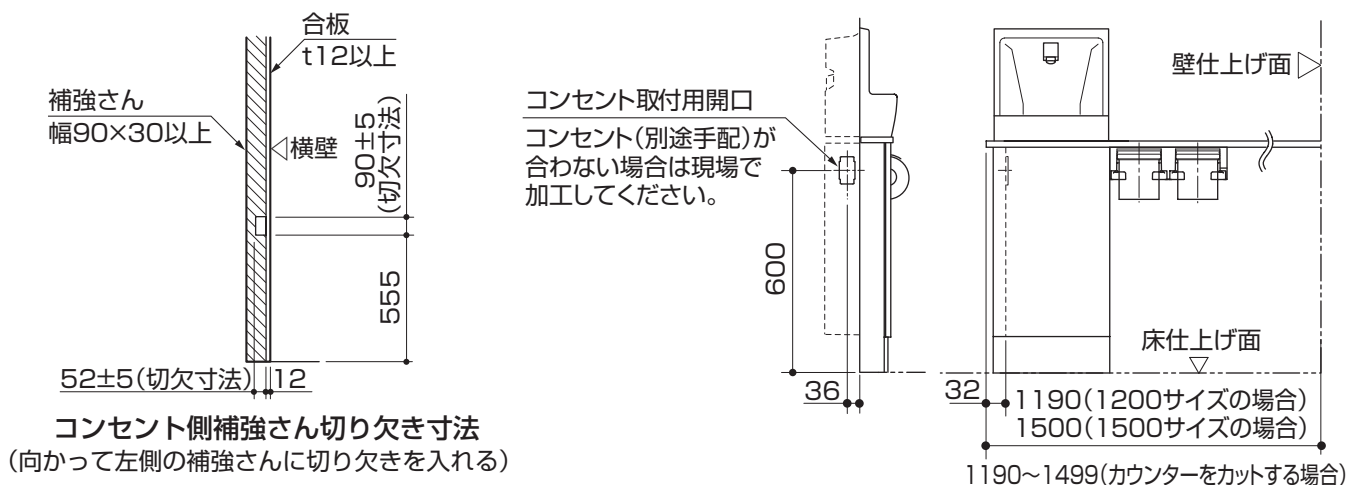
## 5 電気配線について

- ・自動水栓・電気温水器付自動水栓をセットされる場合、あらかじめ下図の位置に壁埋込式コンセント(電気温水器付自動水栓の場合は接地用端子の付いた接地極付きの壁埋込式2口コンセント)を設置してください。
- ・定格消費電力:自動水栓(常時0.4W(作動時0.6W))、電気温水器(約505W)
- ・コンセントは付属品として同梱されておりませんので、現場にて手配してください。
- ・あらかじめ下図のコンセント位置まで配線工事のみを行い、手洗器キャビネット取付後にコンセントを設置してください。

### 右勝手



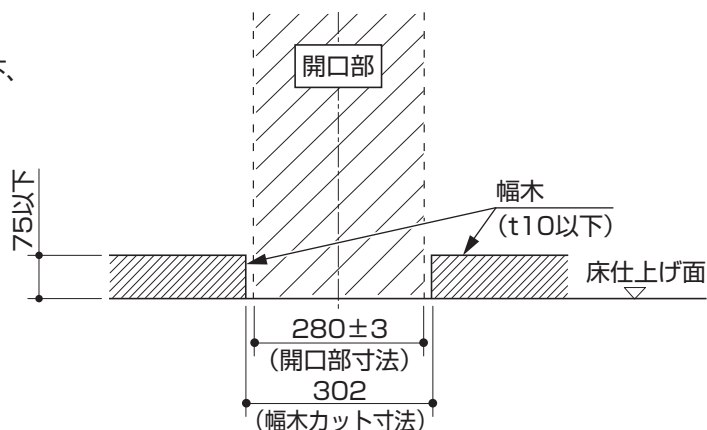
### 左勝手



## 6 幅木について

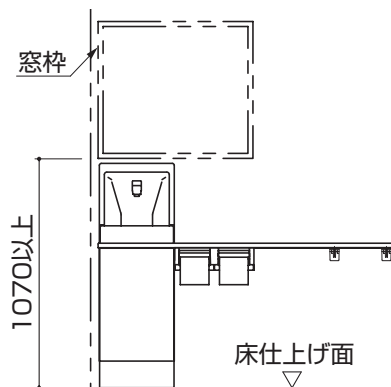
右図の寸法で幅木をカットしてください。

- ※ 足元収納を設置する場合、使用する幅木は高さ75mm以下、厚さ10mm以下にしてください。



## 7 窓枠について

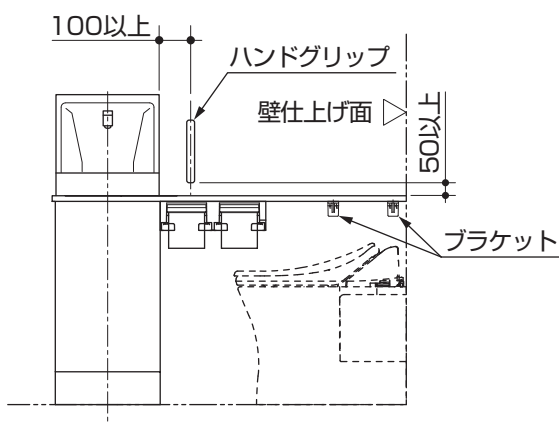
窓がある場合、右図のような制約が付きます。  
事前に商品と干渉しないように注意してください。



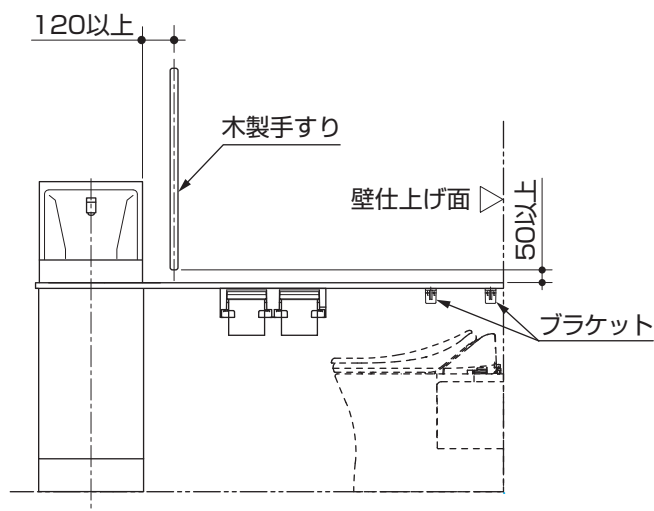
## 8 ハンドグリップ、木製手すり取付位置について

- ①設置の際は、下図の有効寸法をお守りください。
- ②便器の前出寸法は機種によって異なりますので使用者が特定できる場合はその使いやすさにあわせて取付位置を決定ください。

### 1200カウンターサイズ

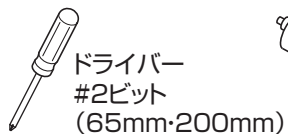


### 1500カウンターサイズ



## 9 必要工具

※一般水道工事に使う工具以外に、下記の工具を用意してください。

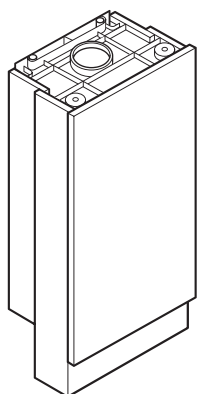


# 2 部品の確認

- ・専用の施工説明書が同梱されている商品は、外装箱のみ表記しています。
- ・包装箱の内容は左勝手を基本として記載しています。

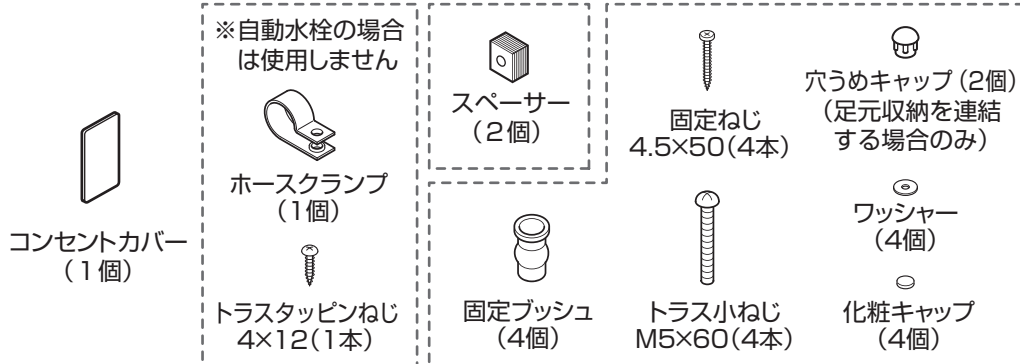
## 手洗器キャビネット

### 手洗器キャビネット



手洗器キャビネット  
(1個)

### その他部材の詰め合わせ



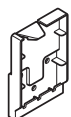
### 自動水栓機能部・止水栓セット

※止水栓は必ず商品同梱の専用止水栓(フィルター付き)を取り付けてください。



### コントローラー固定材

【自動水栓の場合】



コントローラー固定材  
(1個)



トラスタッピンねじ  
4×14 (3本)

### 止水栓

【ハンドル式水栓の場合】

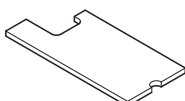


止水栓  
(1個)

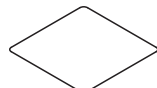


給水管  
(1本)

### 底板



底板 (1枚)

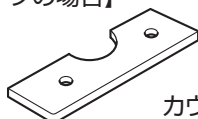


配管用カバー (1枚)

※底板の切欠形状はタイプによって異なります。

### カウンターセット

【単体タイプの場合】



カウンター (1台)

### 手洗器排水管部



偏心管  
(1個)

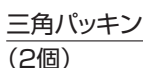


※  
床排水ソケット  
(各1個)

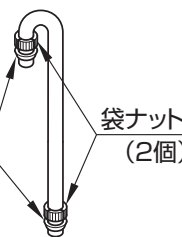
※付属のVU管用アダプタは使用しません



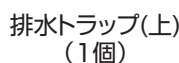
排水トラップ(下)  
(1個)



三角パッキン  
(2個)



袋ナット  
(2個)



排水トラップ(上)  
(1個)



排水金具 (1個)



三角パッキン (1個)



スリップワッシャー (1個)



接続管 (1個)



袋ナット (1個)



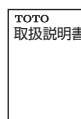
三角パッキン (1個)

### 施工説明書



本書 (1冊)

### 取扱説明書



取扱説明書 (1冊)



開閉工具 (1個)

# 手洗器キャビネット (つづき)

## その他部材の詰め合わせ

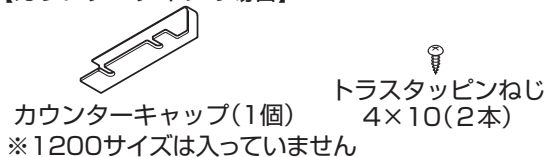
### カウンターブラケット

【カウンタータイプの場合】



### カウンターキャップ

【カウンタータイプの場合】

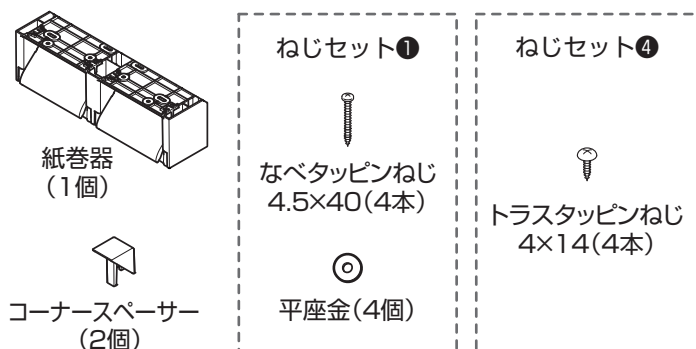


## 商品選択されている場合に入っているもの

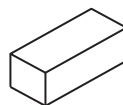
### 紙巻器

【カウンタータイプの場合】

※ねじセットの番号は各袋に記載の番号です。



### ハンドグリップ



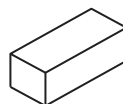
(1箱)

### タオル掛け



タオル掛け (1セット)

### 石けん受け

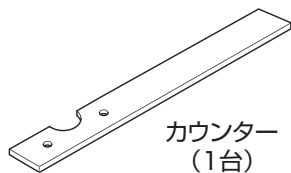


(1箱)

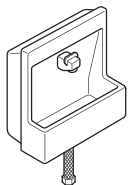
# その他包装

### カウンター

【カウンタータイプの場合】

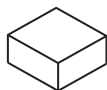


### 手洗器セット



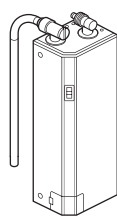
手洗器セット (1個)

### 足元収納

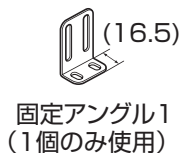
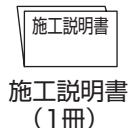
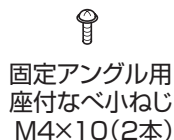


(1箱)

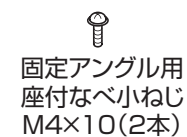
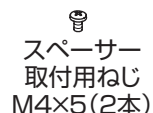
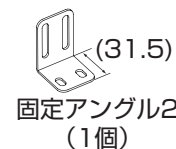
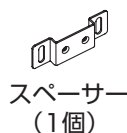
### 電気温水器(電気温水器付の場合)



電気温水器 (1個)

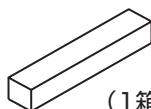


〈下記の部品は使用しません〉



## 商品選択されている場合に入っているもの

### 木製手すり



(1箱)

### 化粧鏡



(1箱)

### タオル掛け付化粧鏡



(1箱)

# 3 部材の取り付け

※この施工説明書では左勝手を説明しています。

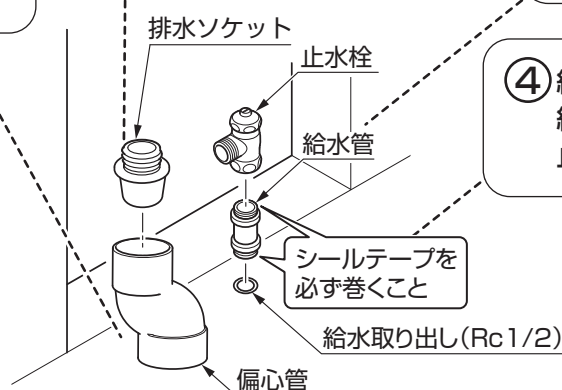
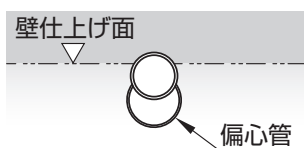
## 1 偏心管・排水ソケット・止水栓の取り付け

- ② 現場の給排水位置にあわせて偏心管に接着剤を塗布し、壁側に偏心するように偏心管を差し込む

- ① 接着剤を塗布し、排水ソケットを差し込む

- ③ 給水管を取り付けする前に必ず給水管内のごみなどを完全に清掃する

- ④ 給水管にシールテープを巻き、給水管取出口にねじ込み、止水栓を取り付ける



### ポイント

**排水ソケットは偏心管に最後までしっかり差し込んでください**

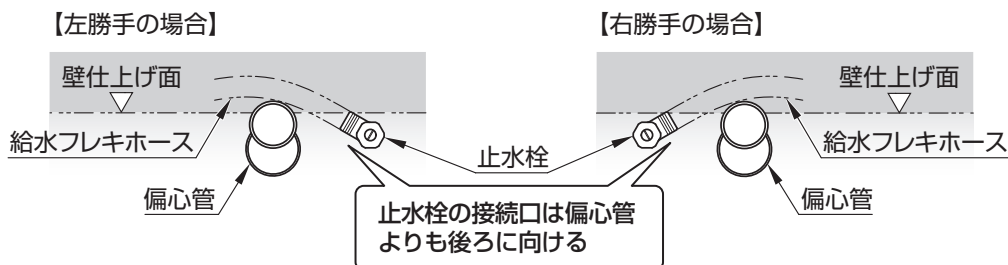
差し込まれてないと排水ソケットの袋ナットが床板より上に出ます。

※排水ソケットのVU管用アダプタは使用しません。

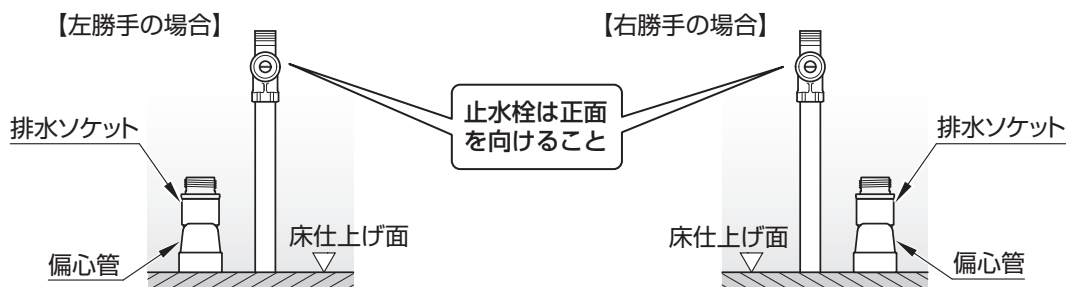
※止水栓の形状は、水栓タイプと給水位置によって異なります。

※上図は、ハンドル式の場合になります。

### ハンドル水栓の場合



### 自動水栓の場合

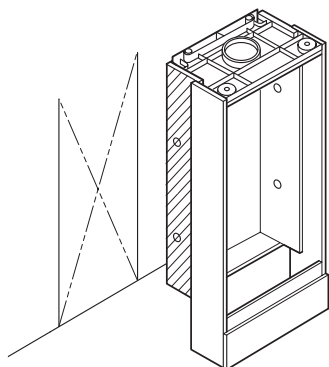


※止水栓は必ず商品同梱の専用止水栓(フィルター付き)を取り付けてください。

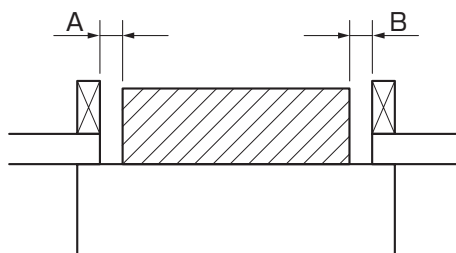
設置だけの場合、フィルターがないため給水管内の異物が除去されず、ゴミかみや異物詰まりによる止水・吐水不良を起こすおそれがあります。

## 2 キャビネットの固定

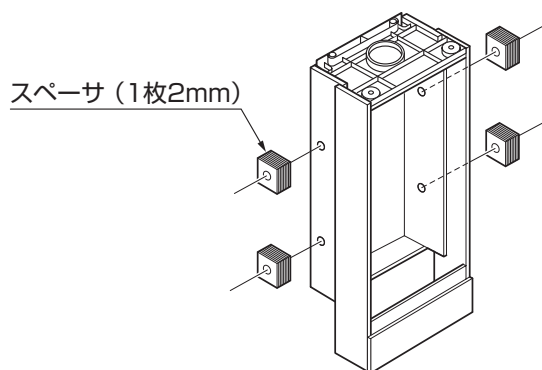
① キャビネットを仮置きする。



② 開口部とのすき間 (A・B) を測定する。



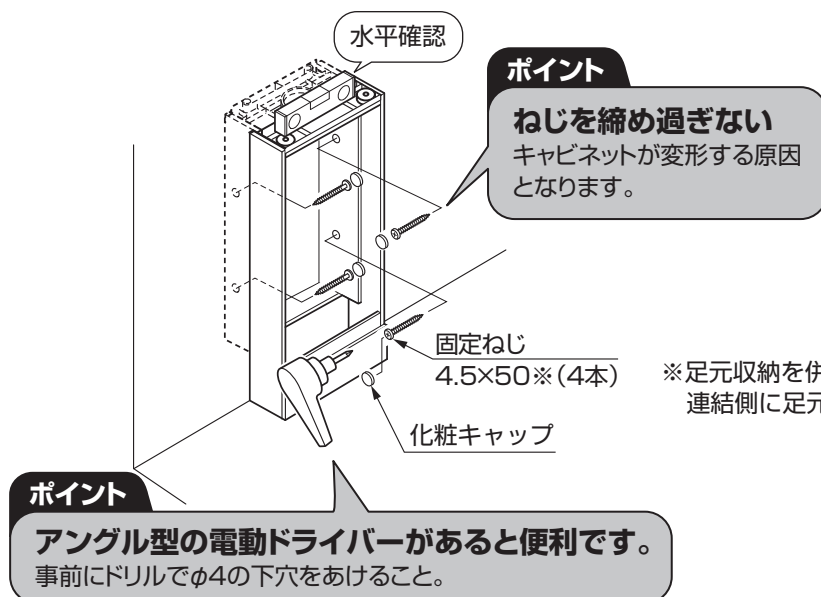
③ いったんキャビネットを外し、A・B寸法にあわせて固定部にスペーサーをはり付ける。



④ 水平を確認し、4本のねじを交互に均等な力で固定する。

【足元収納を併設する場合】

連結側はねじで固定せず、下穴に穴埋めキャップを取り付ける。



※足元収納を併設する場合  
連結側に足元収納同梱のねじφ4×25を使用する。

### 3 カウンターの取り付け(カウンタータイプの場合)

#### カウンターの水平について

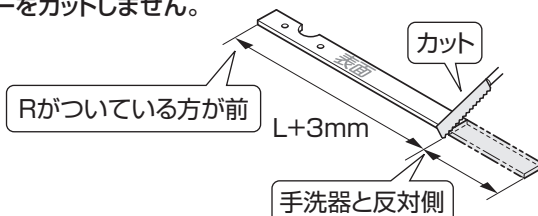
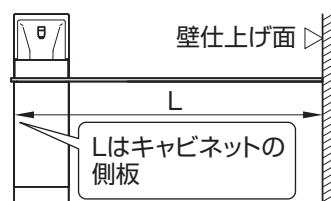
ブラケットおよびカウンターが水平となるように、スペーサーなど(現場手配)で必ず調整してください。  
壁仕上げの状態(垂直、目地、鏡面など)によって、カウンターの見ばえに影響が出ることがあります。

#### 1 カウンターをカットする(1500サイズフリーカットタイプの場合)

キャビネット上端の高さにて後壁とキャビネット側板までの寸法Lを測り、 $L+3\text{ mm}$ の寸法にカウンターをカットする。

※1200サイズの場合は、カウンターは、カットしません。

※ $L=1495$ の場合は、カウンターをカットしません。



#### ポイント

表面を上にしてカットする



#### 2 紙巻器・ブラケットの下穴位置をけがく

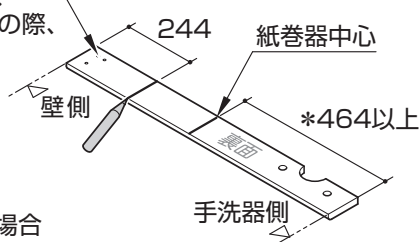
樹脂製紙巻器はブラケットを兼ねています。必ずカウンターブラケットと同時に取り付けてください。

① カウンター裏面に紙巻器中心とブラケット取付位置をけがく。 \* 寸法が464未満になるとキャビネットと干渉します。

#### 1200サイズの場合

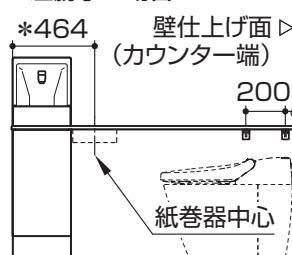
ブラケット下穴

※こちらの下穴は  
ブラケット固定の際、  
使用します。

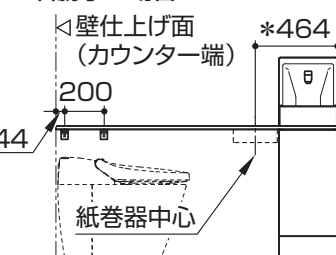


※図は左勝手の場合

＜左勝手の場合＞

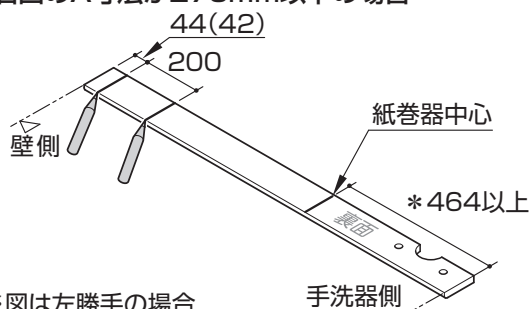


＜右勝手の場合＞



#### 1500サイズの場合

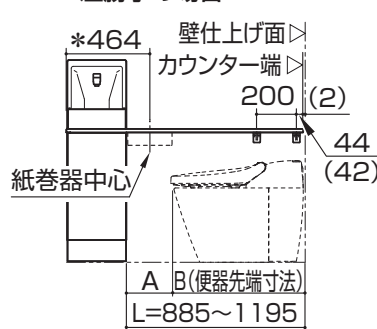
●右図のA寸法が270mm以下の場合



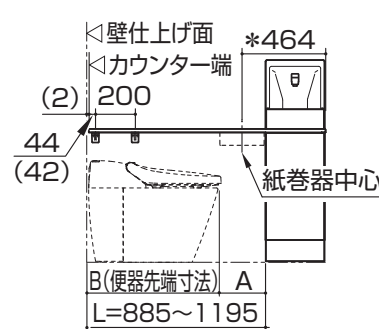
※図は左勝手の場合

※( )はカウンターをカットする場合

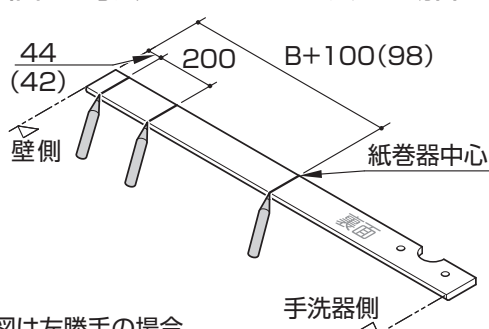
＜左勝手の場合＞



＜右勝手の場合＞



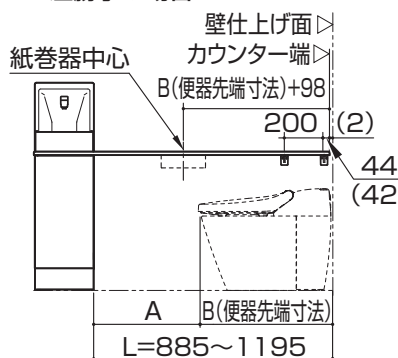
●右図のA寸法が270mmより大きい場合



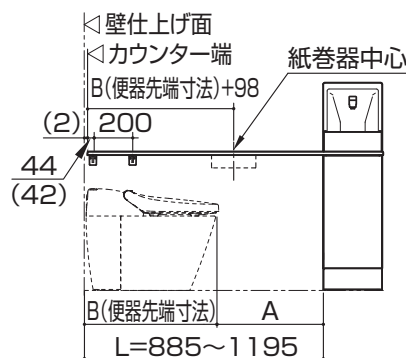
※図は左勝手の場合

※( )はカウンターをカットする場合

＜左勝手の場合＞

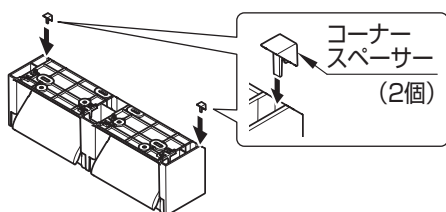


＜右勝手の場合＞

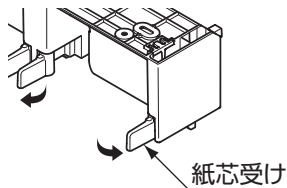


### 3 カウンターの取り付け(カウンタータイプの場合)(つづき)

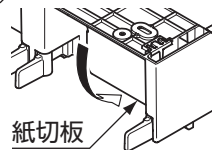
- ② 紙巻器の左右にコーナースペーサーを上側から差し込む



- ③ 紙芯受けを、外側に開く



- ④ 紙切板を奥に倒す



#### 注意

紙切板は外さない  
紙切板が動作不良を  
起こすことがあります。

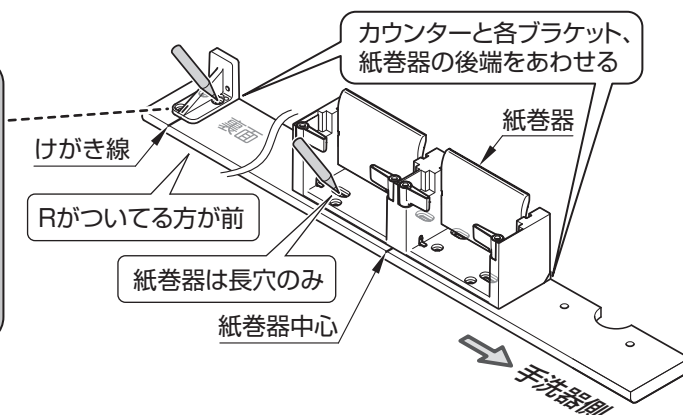
- ⑤ ①でけがいた「けがき線」に、ブラケット・紙巻器の中心をあわせ、下穴位置をけがく。

#### ポイント

ブラケットの中央ラインと取付位置をあわせてけがく

ブラケット正面  
中央ライン

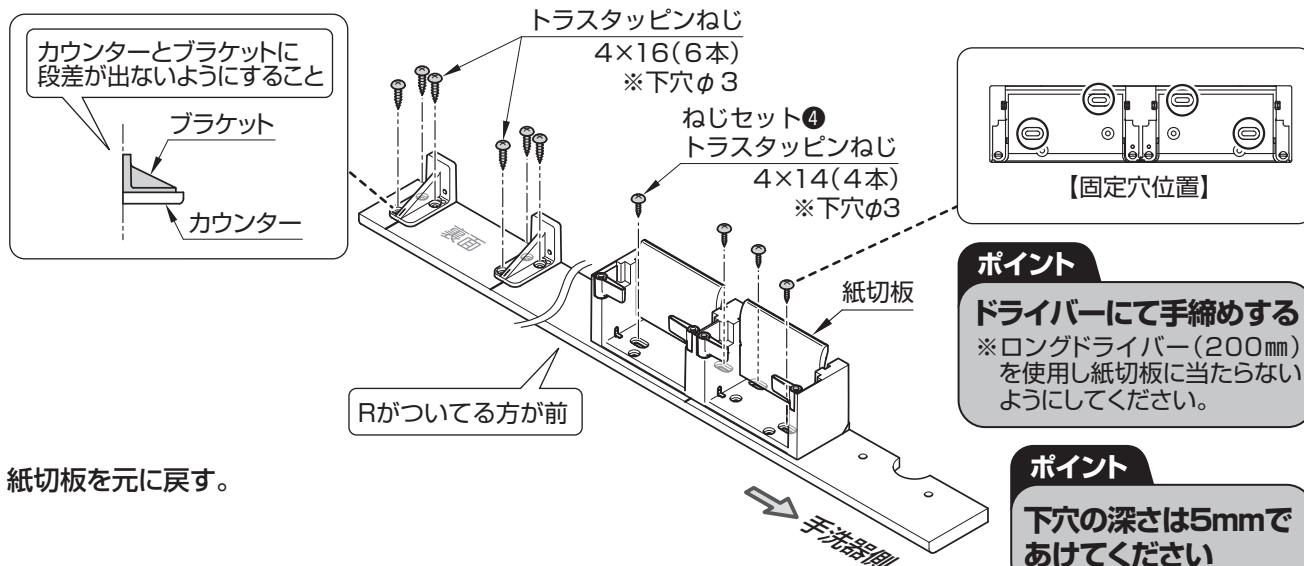
取付位置



【カウンターカットなしの場合】  
壁側はカウンターブラケット穴があいています。

### 3 ブラケット・紙巻器を固定する

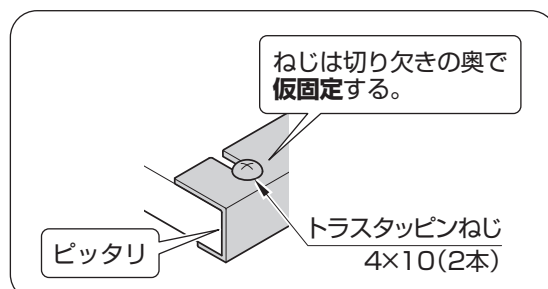
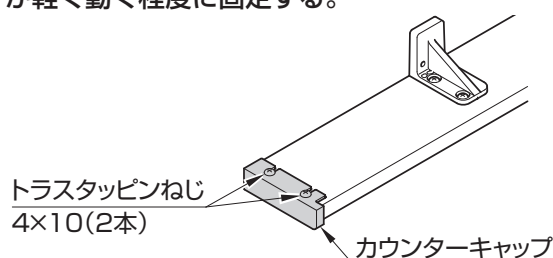
- ① けがいた位置に、ブラケット・紙巻器を固定する。



- ② 紙切板を元に戻す。

### 4 キャップをはめて仮固定する

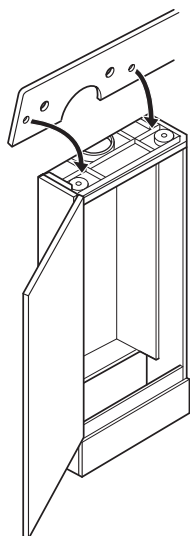
カウンターをカットした側にキャップをはめて仮固定する。  
※キャップが軽く動く程度に固定する。



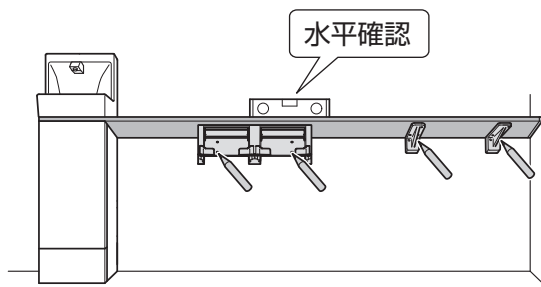
※カウンターをカットしない場合はカウンターキャップは使用しません。

### 3 カウンターの取り付け(カウンタータイプの場合)(つづき)

- ① キャビネット上部のダボをカウンター裏面の穴に差し込む。

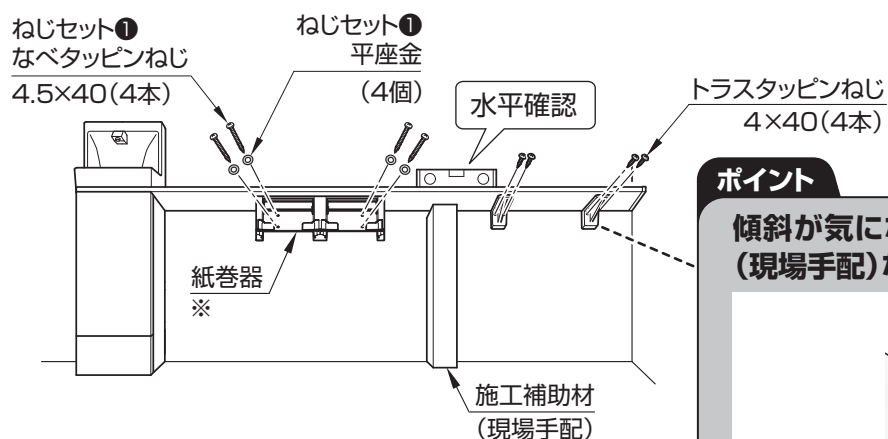


- ② 水平器を使用して左右の水平を確認する。  
壁に紙巻器とブラケットの下穴位置をけがく。



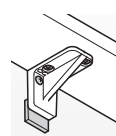
- ③ カウンターを外し、下穴(φ3)をあける。

- ④ カウンターを本固定する。



#### ポイント

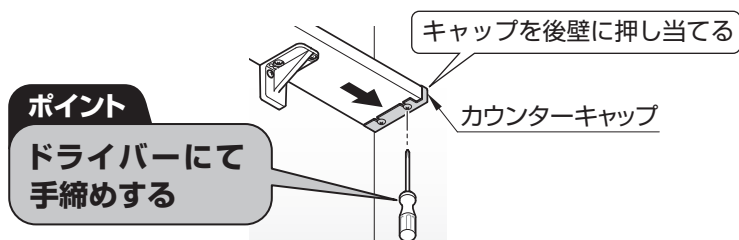
傾斜が気になる場合はスペーサー  
(現場手配)などで調整してください



※ロングビット(200mm)を使用し  
紙切板に当たらないようにしてください。

### 5 カウンターキャップを固定する

キャップを後壁へ押し当て本固定する。



## 4 手洗器の取り付け

### 1 排水金具本体を取り付ける

- ① 右図のように排水金具を手洗器にセットする  
ねじ部にシリコン系シール材を塗布し、  
接続管を締める

#### ポイント

締め付け力の目安としては、接続管を手締めで止まる位置まで回し、工具にて半回転締め付けるくらいが適切です。

#### ⚠ 注意



禁止

接続管を締め過ぎない

排水金具が破損し、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

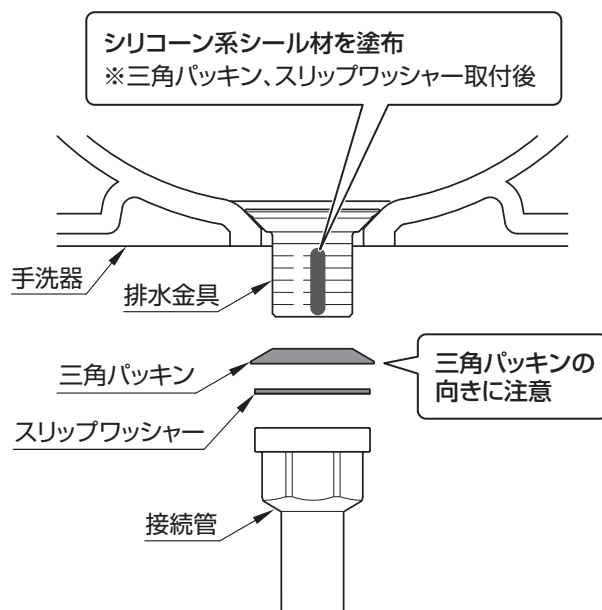
排水金具に工具などを差し込んで(固定し)、締め付けない  
排水金具内の十字部の破損の原因となります。



必ず守る

排水金具ねじ部には、必ずシリコン系シール材を塗布する

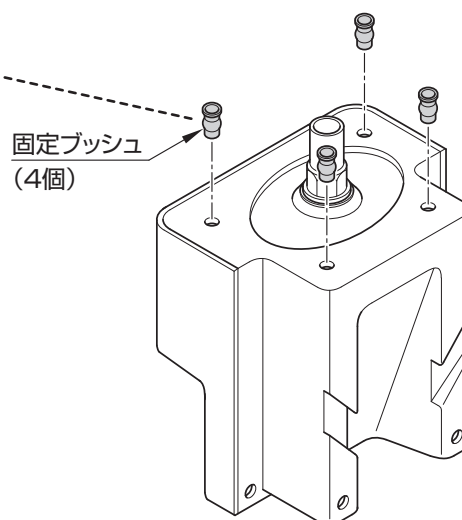
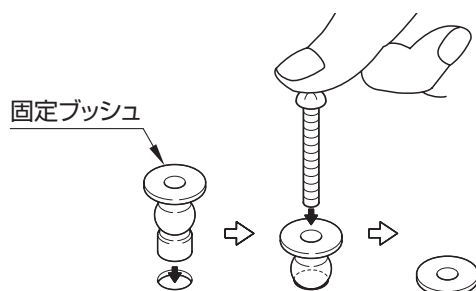
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。



- ② 手洗器裏面の穴に固定ブッシュを4個取り付ける

#### ポイント

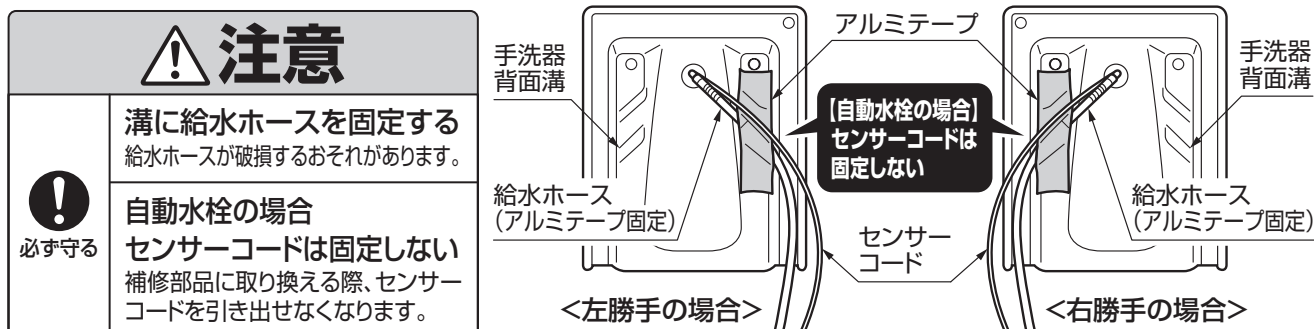
取付ねじで押すと容易に挿入できます。



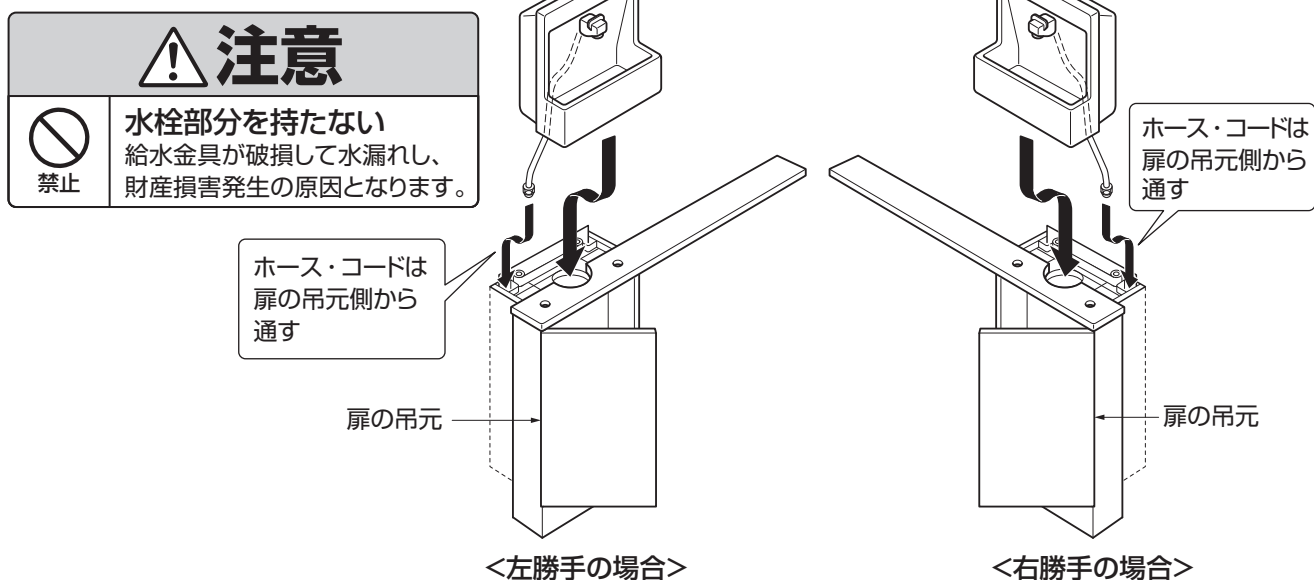
## 4 手洗器の取り付け（つづき）

### ② 手洗器を取り付ける

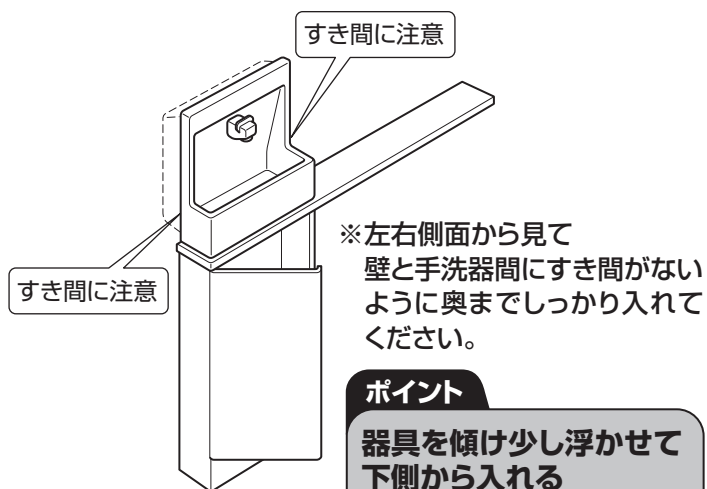
① 手洗器背面の溝に給水ホースを通し、アルミテープで固定する。



② 給水ホースを図の向きにとおす。  
※図はハンドル式水栓の場合。



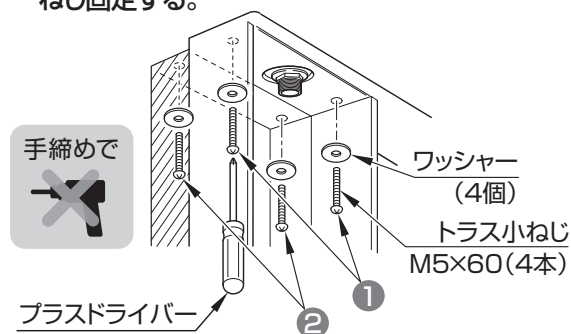
③ 手洗器を開口部に挿入する。



※図は左勝手の場合。

④ ① 手前のカウンター側の2カ所を先にねじで固定する。

② 埋込み側の2カ所を手洗器と壁との間に  
側面から見てすき間ができない程度に  
ねじ固定する。



※① のトラス小ねじは回らなくなるまで  
しっかり締め付けてください。

#### ポイント

② のねじは締め過ぎない  
壁との間にすき間が発生する原因となります。

## 5 給水管の接続

### ハンドル式水栓の場合

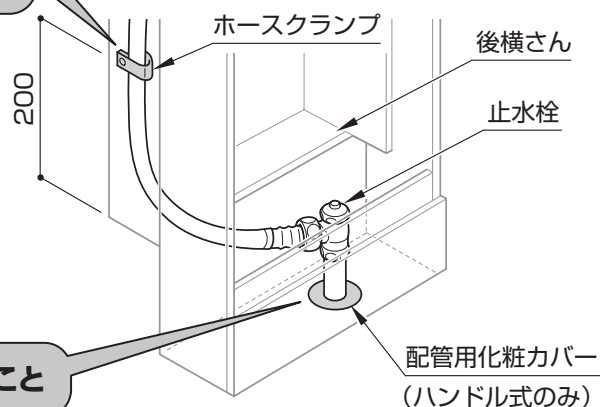
- ① 止水栓と給水栓取出口の接続部を接続し、床部に配管用化粧カバーをはる。丁番側の奥側板へ後横さんから高さ200mmの位置にトラスタッピンねじ $\phi 4 \times 12$ にてホースクランプを取り付ける。

#### ポイント

ホースクランプ固定は  
ねじ位置を背板側にする

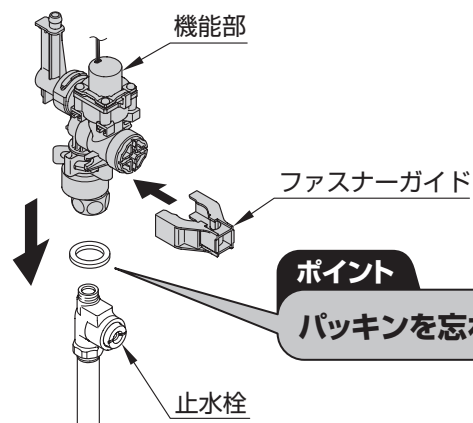
#### ポイント

パッキンを忘れないこと



### 自動水栓の場合

#### 1 機能部を取り付ける



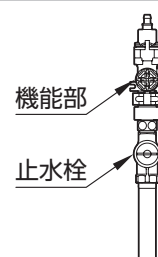
#### ポイント

パッキンを忘れないこと

#### 注意

**機能部と止水栓は  
正面に向ける**

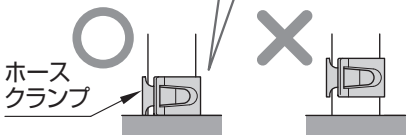
正面に向けないと  
ほかの部材に干渉する  
おそれがあります。

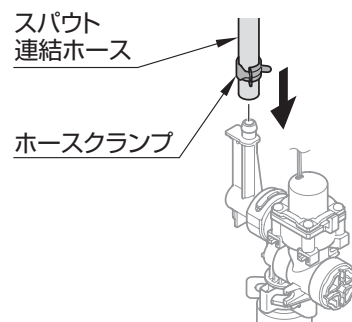


## 5 給水管の接続（つづき）

### 2 スパウト連結ホースを接続する

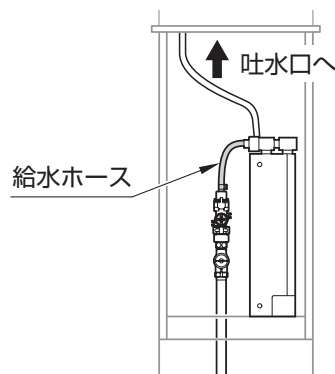
スパウト連結ホースを適切な長さに切断し、接続する。

| <b>⚠ 注意</b>      |                                                                                                                                                                        |
|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>!</b><br>必ず守る | スパウト連結ホースを切断する際は、カッターなどを用い、切断面が垂直になるようにする<br>斜めに切断すると水漏れのおそれがあります。                   |
|                  | ・ホースクランプは所定の位置にくるようにする<br>・必ずホースクランプでスパウト連結ホースを固定する<br>水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。  |
|                  | ・スパウト連結ホースが確実に差し込まれているか確認する<br>・スパウト連結ホースが折れ曲がらないよう注意する<br>水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。                                                                                |
|                  | スパウト連結ホース接続後、軽く引っ張り抜けないこと<br>斜めに切断すると水漏れのおそれがあります。                                                                                                                     |



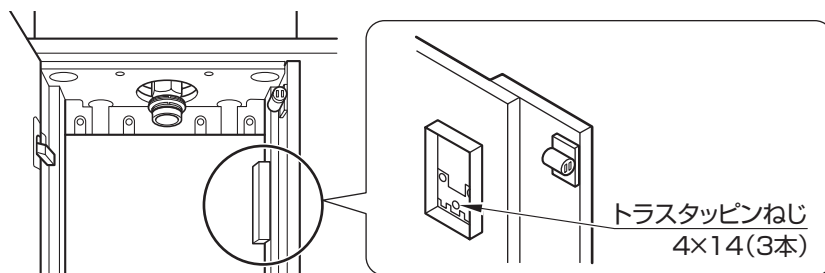
#### 電気温水器付き自動水栓の場合

- 参照** ※詳細は電気温水器に同梱の施工説明書および「7.電気温水器本体の取り付け（電気温水器付き自動水栓の場合）」（P.21）を参照してください。
- ※給水ホースの取り回しは、右図を参照してください。

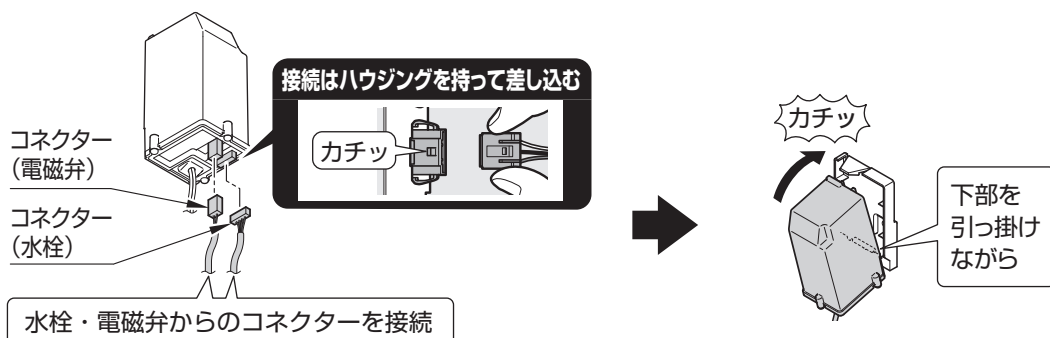


### 3 コントローラーを取り付ける

- ① コントローラー固定材をキャビネット内側板の下穴にあわせて取り付ける。

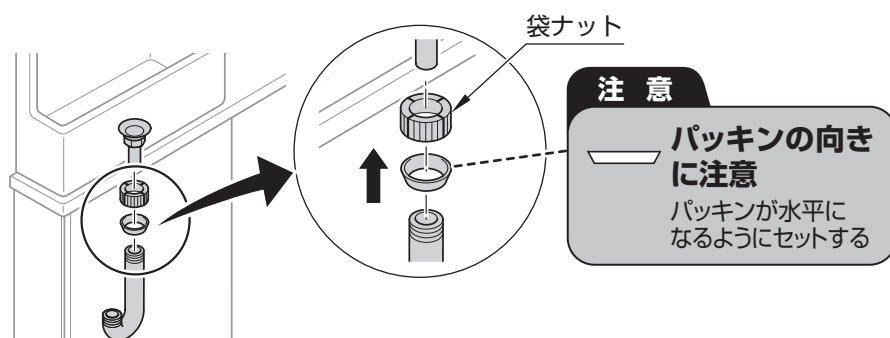


- ② 水栓コネクターと電磁弁コネクターをカチッというまで差し込み、コントローラーをコントローラー固定材にはめ込む。



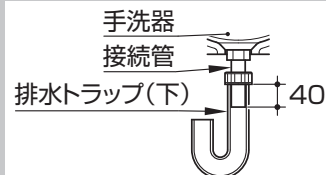
## 6 排水管の接続

- ① 手洗器排水金具の接続管を排水トラップ(下)に差し込み袋ナットで仮固定する。

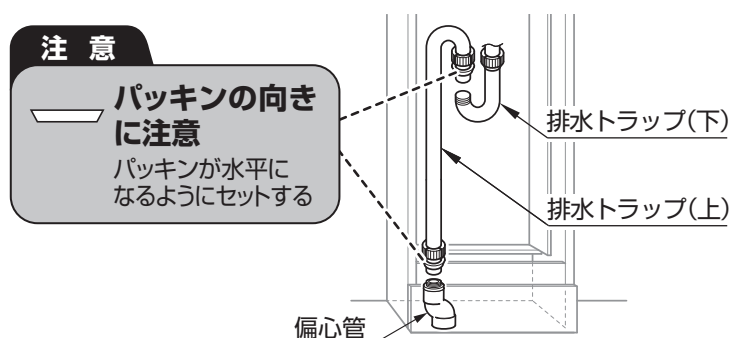


### ポイント

- ・接続管を排水トラップ(下)の奥まで入れる
- ・各部の袋ナットは手で確実に締める  
手で軽く抵抗があるところまで回し、さらに90度以上締め付けるのが目安です。

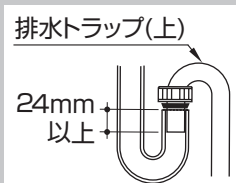


- ② 排水トラップ(上)を排水トラップ(下)と排水ソケットの先端に差し込み、位置決めをする。  
各部の袋ナット(3カ所)を手締めにて、確実に締める。



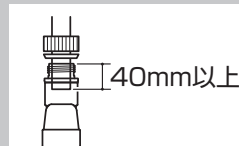
### ポイント

- ・排水トラップ(上)を排水トラップ(下)の奥まで入れる
- ・各部の袋ナットは手で確実に締める  
手で軽く抵抗があるところまで回し、さらに90度以上締め付けるのが目安です。



### ポイント

- ・排水トラップ(上)を偏心管側排水ソケットに40mm以上入れる



## 7 電気温水器本体の取り付け(電気温水器付き自動水栓の場合)

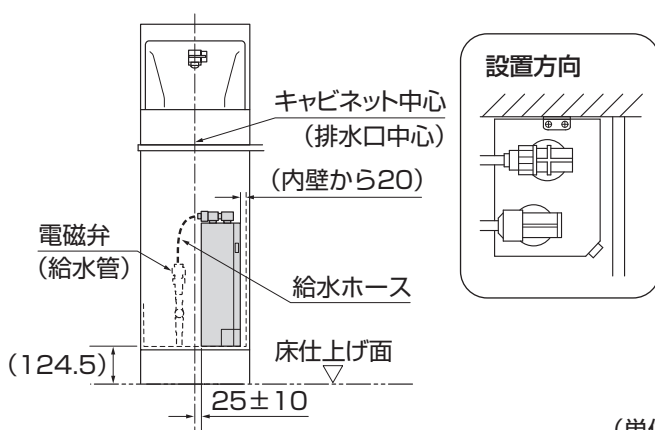
電気温水器が付く場合は底板を先に付けてください。(P.27参照)

### 参照

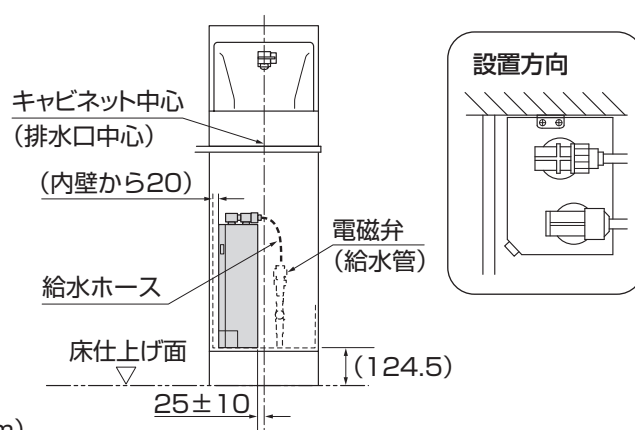
※詳細は電気温水器に同梱の施工説明書を参照してください。

※取付面がタイル・コンクリート壁の場合は、コンクリート用プラグ(現場手配)を使用してください。

### 左勝手



### 右勝手



(単位：mm)

# 7

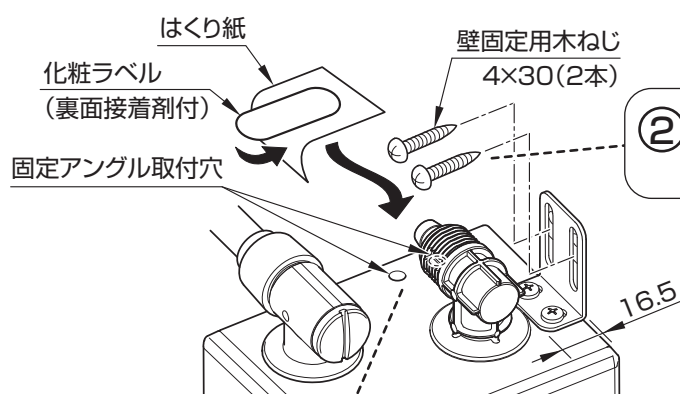
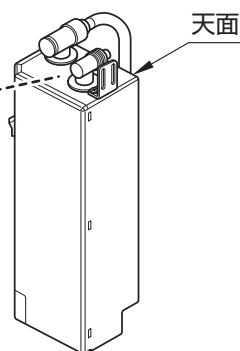
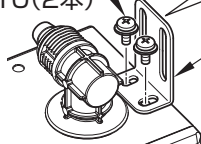
## 電気温水器本体の取り付け(電気温水器付き自動水栓の場合)(つづき)

- ① 電気温水器に固定アングル1を同梱のねじで取り付ける

固定アングル用  
座付なべねじ  
M4×10(2本)

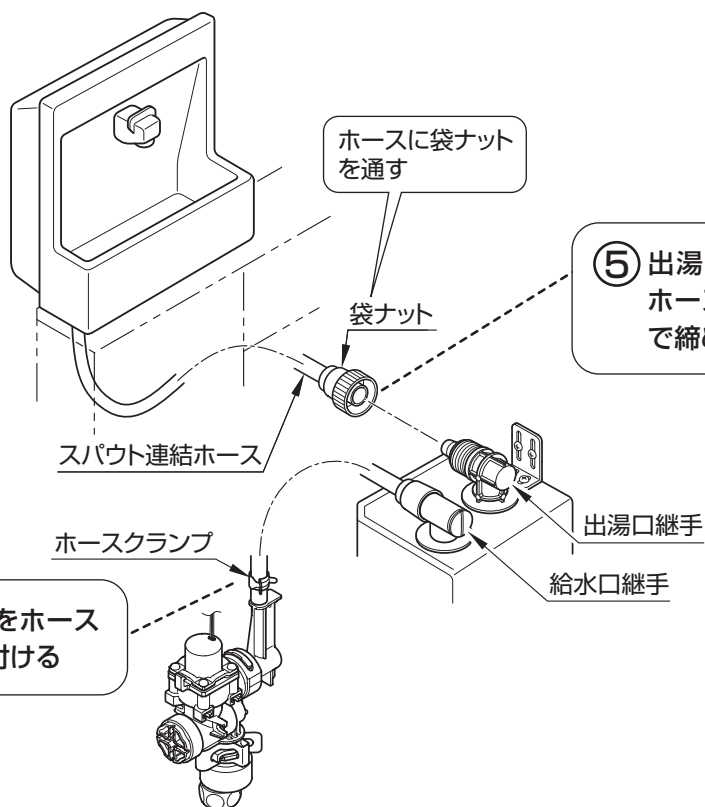
短辺側を  
本体に取り付ける

固定アングル1



- ② 本体を壁に同梱のねじで取り付ける

- ③ 化粧ラベルで電気温水器本体上部の固定アングルを取り付けない方(長辺側)の穴にはり付けてふさぐ



- ⑤ 出湯口継手にスパウト連結ホースを差し込み、袋ナットで締め付ける

- ④ ホースと機能部をホースクランプで締め付ける

# 4 器具類の取り付け

## 1 ハンドグリップ、木製手すり、タオル掛けの取り付け

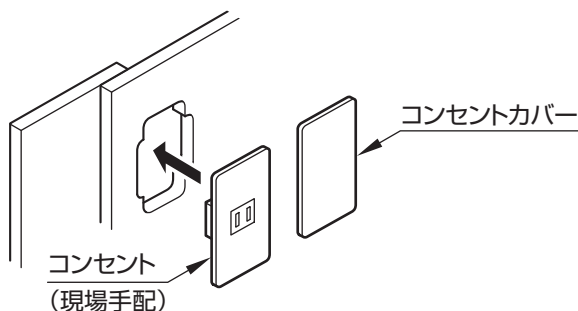
**参照** ※詳しくは、各商品に同梱の施工説明書を参照してください。

## 2 石けん受けの取り付け

手洗器の右もしくは左側の縁に石けん受けの切欠部をはめこむようにして取り付ける。

## 3 コンセントの取り付け

キャビネット側板にコンセント（現場手配）を取り付ける。  
コンセントが必要ない場合はコンセントカバーをはめ込む。  
※コンセント（現場手配）が合わない場合は、現場で加工してください。



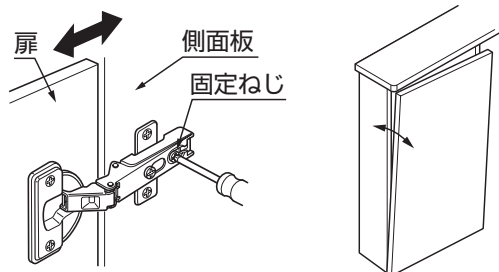
# 5 仕上げ・調整

## 1 扉の調整

キャビネット据え付け後、扉のすき間が不均一だった場合、以下の手順に従って調整し直してください。

### 前後調整

丁番の固定ねじをゆるめて調整したあと、締め直す。



### 動画を見る

#### 扉の調整

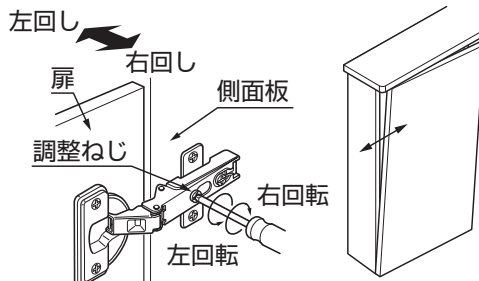
※通信料がかかります。

※ご利用環境によって閲覧できない場合があります。



### 左右調整

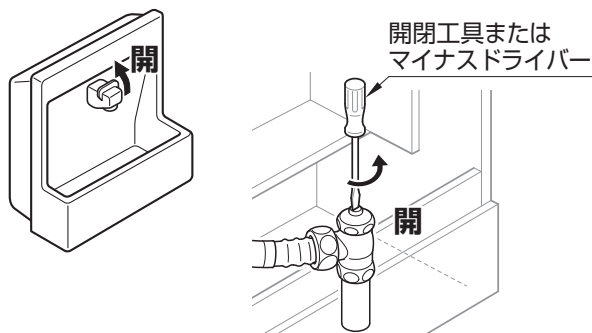
丁番の調整ねじを回して調整する。



## 2 吐水確認

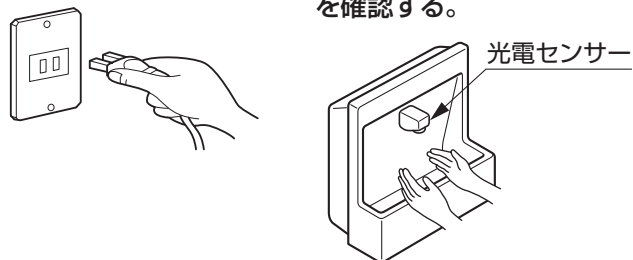
### ハンドル式水栓

- ① 止水栓が閉まっていることを確認する。
- ② ハンドルを全開まで上げる。
- ③ 適切な流量になるまで少しずつ止水栓を開ける。



### 自動水栓

- ① コンセントにプラグを差し込む。
- ② 止水栓を開けて手洗器に手を差し出し水が出ることを確認する。



## ⚠ 注意



必ず守る

手洗時に水はねしない様な吐水量になるよう止水栓を調整する  
手洗時に水はねし床などをぬらす原因となります。

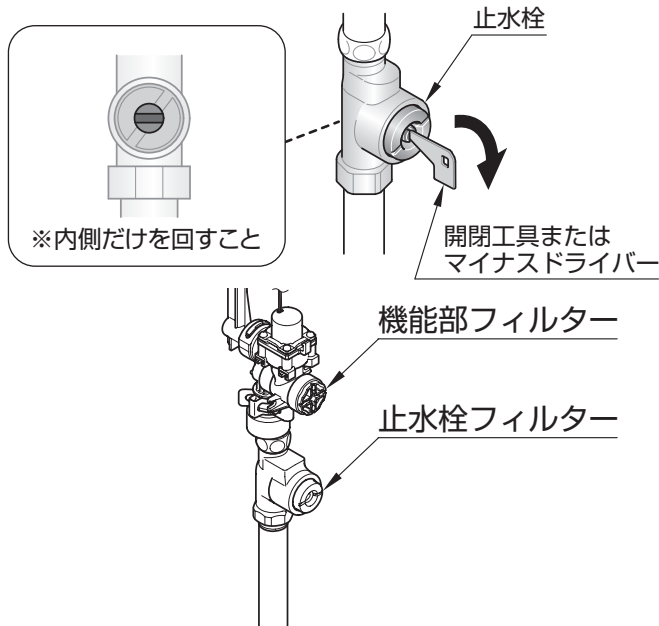
### 電気温水器付の場合



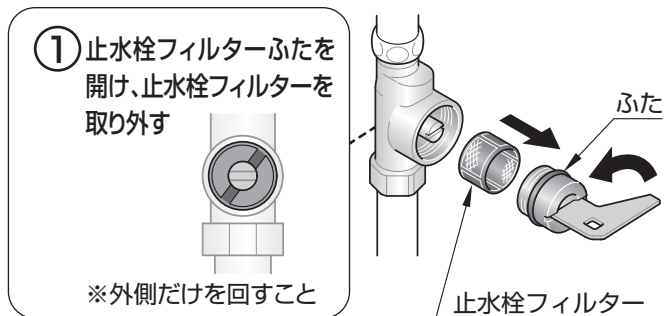
参照 電気温水器の梱包箱に同梱されている電気温水器の施工説明書の手順に従って吐水確認(試運転)を行ってください。

### 3 フィルターの清掃（自動水栓の場合のみ）

#### 1 止水栓を閉める



#### 2 止水栓フィルターの掃除



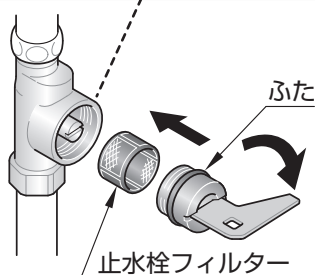
#### ② 止水栓フィルターの清掃を行う

##### ポイント

止水栓フィルターの清掃は必ず実施する



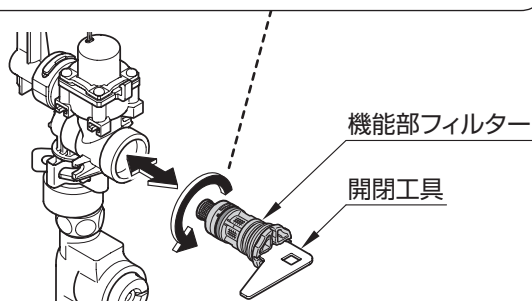
#### ③ 止水栓フィルターを元の位置に取り付け、止水栓フィルターふたを開閉工具で締め付ける



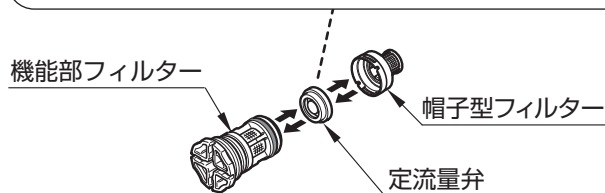
※止水栓は必ず商品同梱の専用止水栓（フィルター付き）を取り付けてください。

#### 3 機能部フィルターの掃除

##### ① 自動水栓機能部に組み込まれている機能部フィルターを開閉工具で外す

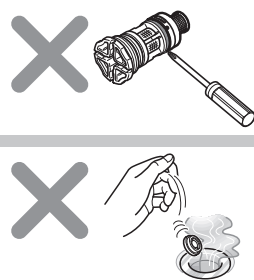


##### ② 帽子型フィルターを外し、定流量弁を取り外す

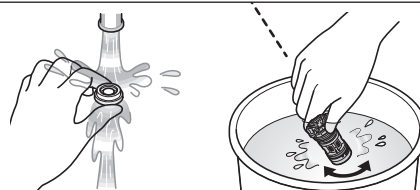


##### 注意

- 機能部フィルターの分解時に工具は使用しない
- 定流量弁が排水に流れていかないように注意する

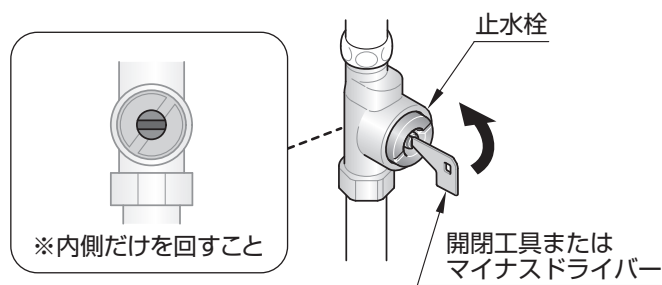


##### ③ 機能部フィルター、帽子型フィルター、定流量弁に詰まったゴミを、水洗いして取り除く



##### ④ 機能部フィルターに定流量弁、帽子型フィルターを取り付け、機能部フィルターを奥まで確実に取り付ける

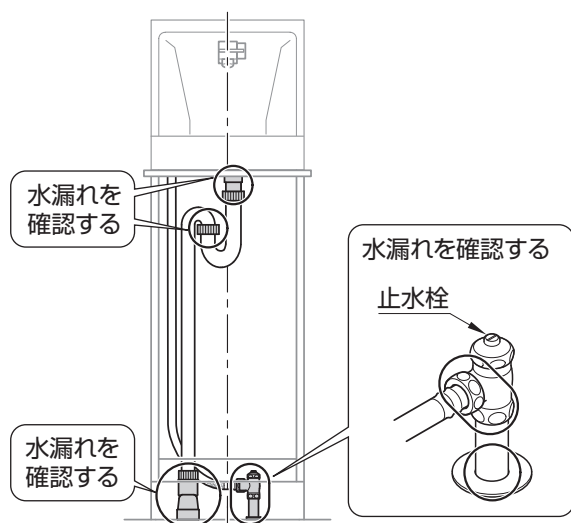
#### 4 止水栓を開ける



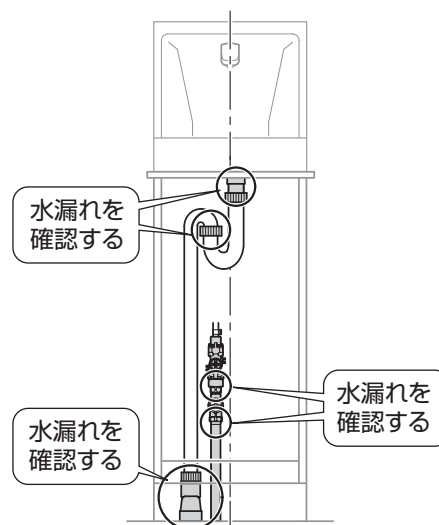
## 4 給・排水の水漏れ確認

2～3度洗浄させて、給水管や排水管の接合部から水漏れや袋ナットのゆるみなどがないことを確認する。  
各配管の接続部は増し締めする。

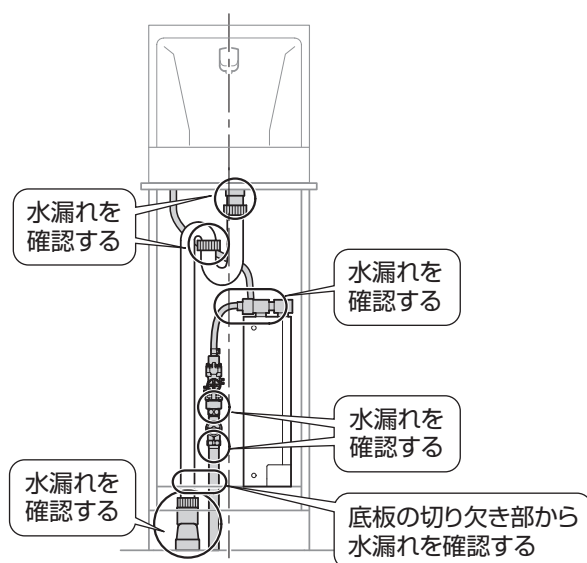
### ハンドル式水栓



### 自動水栓

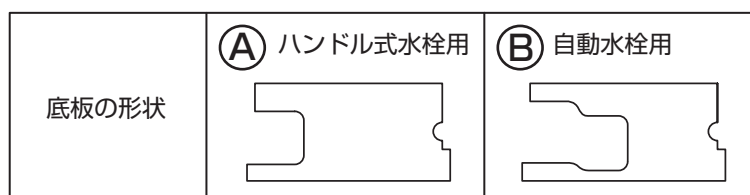
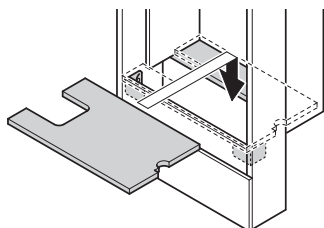


### 自動水栓(電気温水器付き)の場合



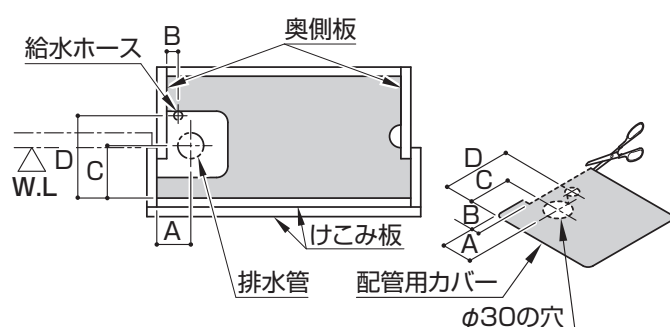
## 5 底板の取り付け

- ① 底板の取り付け  
底板を横さんの上に載せる。  
※木口を仕上げている方を前にする。

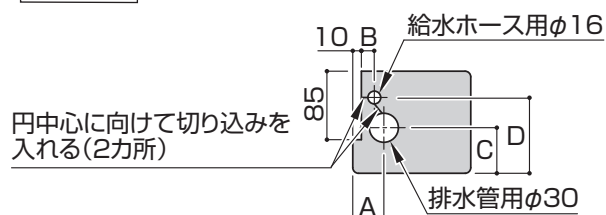


- ② 給排水管位置を測り、配管用カバーを切り欠く。  
※はくり紙を下にしてけがく。

### ハンドル式水栓の場合

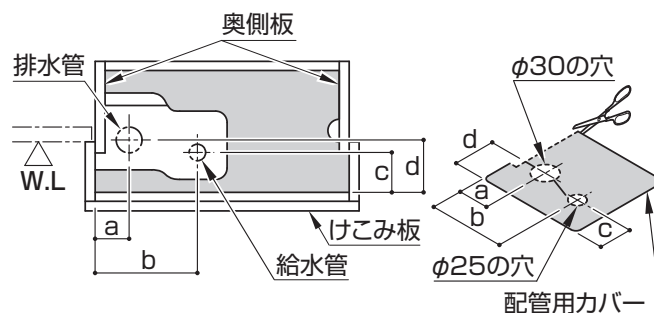


#### 完成図

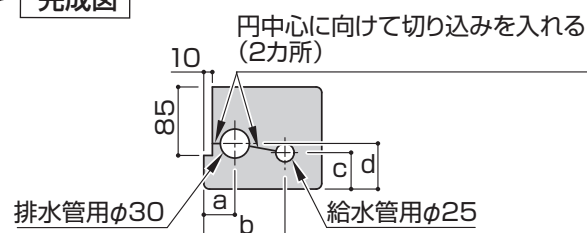


- ・A: 側板内側～排水管の中心
- ・B: 奥側板内側～給水ホースの中心
- ・C: けこみ板内側～排水管の中心
- ・D: けこみ板内側～給水ホースの中心

### 自動水栓の場合

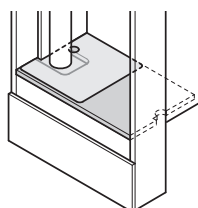


#### 完成図



- ・a: 側板～排水管の中心
- ・b: 側板～給水管の中心
- ・c: けこみ板～排水管の中心
- ・d: けこみ板～給水管の中心

- ③ 底板に配管用カバーをはくり紙をはがしてはり付ける。  
※配管にあわせてきれいにはり付けてください。



## 6 シリコン系シール材の塗布

陶器周囲にシリコンシール材(別途手配)を塗布することをおすすめします。

